

570

34

事改良資料第三七

昭和七年三月

道府縣農事試驗場ニ於ケル大豆ニ關スル試驗成績概要

農林省農務局



始



正誤表

頁	行又ハ欄	誤	正
一四	上ヨリ三欄	一石八五三	(5) 一石八五三
五一	左ヨリ二乃至五行	株間、寸指	株間、寸指
一六	上ヨリ三欄	(3) 一九一九年一行右へ移入	株間、寸指

發行所寄贈本

凡例

一 本書ハ昭和五年五月道府縣農事試験場長ニ照會シテ蒐集セル大豆
 二 関スル試験成績ノ概要ヲ登載ス但シ一箇年ヲ以テ試験ヲ廢止シ
 又ハ試験設計ヲ変更セルモノ及緑肥用大豆ニ関スル試験成績ハ之
 ヲ省略セリ



二 試験名試験ノ目的結論等ハ何レモ回答原文ノ儘ヲ掲記スルニ努メ
 タルモ取極メノ都合上原文ノ意義ヲ変更セザル範圍内ニ於テ改変
 ヲ加ヘタルモノアリ
 三 成績表中收量ト平均ナルハ反當收量ノ意ナリ
 四 試験成績ノ平均年数が珣何年ノ年数ト合致セザルモノアリ
 五 試験成績ノ平均年数ヲ示セリ
 六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 二十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 三十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 四十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 五十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 六十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 七十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 八十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十一 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十二 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十三 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十四 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十五 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十六 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十七 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十八 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 九十九 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年
 一百 試験場合ハ之ニ於テ試験區ニ依リ成績平均年



579-347

目次

第一	品種改良ニ関スル試験	一
一	品種試験	一
二	系統分離試験	二
三	人工交配ニ依ル新品種育成試験	三
第二	種子ノ予措ニ関スル試験	四
一	株種試験	四
二	三種試験	五
三	選種試験	五
四	種子乾燥試験	七
五	古種子試験	八
第三	播種期播種量播種法及畦幅播幅等ニ関スル試験	九
一	播種期試験	九
九	播種期對播種量試験	九
一〇	播種量試験	二一
一一	播種量及畦幅對播種法試験	二二
一二	播種量對播種法試驗	二四
一三	播種量對播種法試驗	二五
一四	品種對播種粒數試驗	二七

一五、	本数試験	二八
一六、	生育領域ニ関スル試験	二九
一七、	播種量対肥料用量試験	三一
一八一—一九、	畦幅試験	三二
二〇—二一、	株間試験	三四
二二、	株間対畦幅試験	二六
二三、	株間対肥料用量試験	二七
二四、	播幅試験	三九
二五—三八、	播種法試験	四〇
三九、	整地対播種法試験	五三
四〇—四二、	播種法対肥料用量試験	五七
四三、	覆土試験	六一
四四、	鎮壓法試験	六二
四五—四六、	移植対直播比較試験	六三
第四、	耕鋤間引、摘葉、摘心、收穫等ニ関スル試験	六五
一、	耕鋤期試験	六五
二、	耕鋤深淺試験	六六

三、	耕鋤期対耕鋤深淺試験	六七
四、	耕鋤深淺対肥料用量試験	六八
五、	高畦平畦比較試験	六九
六、	陸稻混植ト早害トノ関係試験	七〇
七、	間引試験	七一
八、	培土試験	七二
九、	摘葉試験	七三
一〇—一二、	摘心試験	七四
一三、	枝ノ疎密試験	七七
一四、	耕種法試験	七八
一五、	熟期促進試験	七九
一六、	收穫期試験	八〇
第五、	前作、輪作、連作、間作等ニ関スル試験	八一
一—五、	前作関係試験	八一
六、	間作試験	八六
第六、	肥料ニ関スル試験	八七
一、	施肥期試験	八七

二一五	要素試驗	八八
六	三要素適量試驗	九四
七	窒素適量試驗	九六
八	磷酸適量試驗	九七
九	磷酸加里及石灰適量試驗	九八
一〇	加里適量試驗	一〇〇
一一	一、二、三、窒素質肥料用量試驗	一〇一
一二	厩肥用量試驗	一〇三
一三	人尿施用試驗	一〇四
一四	過磷酸石灰用量試驗	一〇五
一五	一、五、七、過磷酸石灰及石灰用量試驗	一〇九
一六	過磷酸石灰及石灰用量試驗	一一〇
一七	骨粉用量試驗	一一一
一八	藁灰用量試驗	一一二
一九	石灰用量試驗	一一四
二〇	石灰加用試驗	一一五
二一	石灰効力試驗	一一六
二二	肥料用量試驗	
二三	肥料用量試驗	
二四	肥料用量試驗	
二五	肥料用量試驗	

二六	厩肥肥効比較試驗	一一九
二七	磷酸質肥料肥効比較試驗	一二〇
二八	促肥素施用試驗	一二一
二九	滿庵加用試驗	一二二
三〇	一、三、四、肥料配合試驗	一二三
三一	連作ニ対スル肥料試驗	一二八
三二	病害ニ関スル試驗	一二九
三三	葉卷虫駆除試驗	一三〇
三四	大豆紫斑病豫防試驗	一三一
三五	大豆紫斑病ノ發生ト硫酸アンモニア施用量トノ關係試驗	一三二
三六	土地改良ニ関スル試驗	一三三
三七	土質改良試驗	一三二
三八	酸性抵抗力考查試驗	一三三

第一表	道府縣別獎勵品種一覽表	一三四
第二表	系統分離試驗供用品種一覽表	一四三
第三表	道府縣別試驗事項一覽表	一四七

第一、品種改良ニ関スル試験

一、品種試験

1. 目的

多數品種ヲ蒐集比較シ優良ナル品種ヲ選抜セムトス
供試品種中ニハ同名異種、異名同種ノモノ、等相當多キ模
様ナルモ北海道外三十六府縣ニ於ケル供試品種數ハ七百
餘種ニシテ試験ノ結果優良ト認メ獎勵中ノ品種名並之ガ
普及見込面積ハ卷末第一表ノ如シ



二 系統分離試験

1. 目的 系統分離ヲ行ヒ優良系統ヲ選抜セムトス
 口 成績 北海道外十八縣ニ於ケル系統分離試験供用品種名ハ卷
 末第二表ノ通ニシテ試験ノ結果優良ト認メ既ニ獎勵中
 ノ品種名普及見込面積並在來種ニ對スル增收歩合ハ卷
 末第一表ノ如シ

三 人工交配ニ依ル新品種育成試験

1. 目的 人工交配ヲ行ヒ優良新品種ヲ育成セムトス
 口 成績 昭和五年現在ニ於ケル世代別組合數ハ左ノ通ニシテ試
 験ノ結果優良ト認メ既ニ獎勵中ノ品種名普及見込面積
 並ニ在來種ニ對スル增收歩合ハ卷末第一表ノ如シ

北 道	北 道	第一代	組
岩 縣	岩 縣	二 〇	合
手 縣	手 縣	六 三	代
海 道	海 道	三	數
島 縣	島 縣		四 代
縣 道	縣 道		

第二、種子ノ豫措ニ関スル試験

一、採種試験（埼玉縣）

イ、目的 採種位置ニ依ル大豆種子ノ優劣ヲ知ラントス
ロ、成績

試 驗 區 名	自明治四十四年三十七年三年平均收量		結 論
	毛	鬼	
莖ノ上部ヨリ採種區	一石一九四	一石一九三	兩種共莖ノ中部ヨリ採種セルモノ 優ル
莖ノ中部ヨリ採種區	一石二四四	一石二四六	
莖ノ下部ヨリ採種區	一石二一一	一石一九一	

（備考）各區共塩水選ヲ施行セリ

二、選種試験ノ一（秋田縣）

イ、目的 種子ノ大小ガ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
ロ、供試品種不明
ハ、成績

試 驗 區 名	自明治三十三年五十七年平均收量	結 論
大 粒 區	一石六〇九	大粒ヲ播種スルニ利アリ
中 粒 區	一石五三七	
小 粒 區	一石五二七	

三、選種試驗ノ二（埼玉縣）

1. 目的 選種法ノ如何ガ大豆ノ收量ニ及ホス影響ヲ知ラムトス
 口 成績

試驗區名	自明治四十四年四月至四十五年四月平均收量		結論
	毛	裸	
普通選種區	一石一七三	一石一八五	兩種共塩水選區優ル
塩水選種區	一石二五九	一石二一八	

（備考）普通選種區ハ板上ニ種子ヲ轉ケシ形状正シキモノヲ選別シ
 塩水選種區ハ比重一・二ニテ選種セルモノトス

四、種子乾燥試驗（三重縣）

1. 目的 種子ノ乾湿ト收量トノ關係ヲ知ラントス
 口 供試品種 早生夏大豆
 口 成績

試驗區名	自大正九年二月至九年四月平均收量	結論
普通貯藏種子區	一石三八	普通貯藏種子區成績最モ良好ナリ
播種前三日間晴天乾燥區	一石〇五	
播種前六時間浸水區	一石一八	

五、古種子試驗（北海道）

1. 目的 古種子ノ生産力ヲ驗知セムトス
 口、供試品種 白小粒
 八、成績

試驗區名	至明治三十九年三ヶ年平均收量	結
一年前ノ種子區	〇石九	二年前述ノ種子ハ安全ニ種子用ニ供シ得ベシ
二年前ノ種子區	一〇〇	
三年前ノ種子區	〇石八	

第三、播種期、播種量、播種法及畦幅、播幅等ニ関スル試驗

一、播種期試驗ノ一（北海道）
 1. 目的 地方の播種ノ適期ヲ知ラムトス
 口、成績

結論	十勝		北見		大谷		黒山		大谷		大谷		大谷		大谷	
	豐永	支場	赤	英	大	地	黒	山	大	地	大	地	大	地	大	地
五月五日播區	〇石八二四	一〇石九〇	一石	一〇	〇石	〇三八九	一三七九	一三五六	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
五月十日播區	〇九〇一	一〇石六二	一石	一〇	〇石	〇七一一	一三八〇	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
五月十五日播區	〇八七三	一〇石四三	一石	一〇	〇石	〇八二九	一三三九	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
五月二十日播區	〇八七三	一〇石四三	一石	一〇	〇石	〇七一一	一三八〇	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
五月二十五日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
五月三十日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
六月五日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
六月十日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
六月十五日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
六月二十日播區	〇八一〇	一〇石八一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石
同	〇九七八	一〇石九一	一石	一〇	〇石	〇九五八	一三八八	一四〇一	一四〇一	一〇石	一二三四	一〇石	一二二〇	一〇石	一二二〇	一〇石

二、播種期試験ノ二（青森・岩手・宮城縣）
 1. 目的的播種期試験ノ一二同ジ
 口、成績

結 論	陽		赤		英		玉		造		岩手		宮城		
	自 至	大 正	十 二	年 四	年 四	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三	年 三
五月一日播區	一石	四	六	九	一石	六	一	七	一石	五	二	六	一石	三	二
五月十一日播區	一石	四	六	九	一石	五	二	一	一石	二	六	一	一石	三	二
五月十五日播區	一石	四	六	九	一石	五	二	一	一石	二	六	一	一石	三	二
五月二十一日播區	一石	四	八	五	一石	四	三	九	一石	四	一	一	一石	三	九
五月二十五日播區	一石	四	五	五	一石	三	三	五	一石	一	三	九	一石	四	三
五月三十一日播區	一石	四	五	五	一石	三	三	五	一石	一	三	九	一石	四	三
六月四日播區	一石	四	五	五	一石	三	三	五	一石	一	三	九	一石	四	三
六月十日播區	一石	四	五	五	一石	三	三	五	一石	一	三	九	一石	四	三
六月二十日播區	一石	四	五	五	一石	三	三	五	一石	一	三	九	一石	四	三

陽月ハ播種期遅ル、モ收量ニ大ナル影響ナキガ如キモ赤英及玉造ハ
 播種期遅ル、ニ從テ收量ノ傾向アリ之ニ依ツテ見レバ概シテ早熟種
 ハ播種期遅ル、モ收量スルコト少ナキモ晩熟種ハ之ニ反スルカ如シ

五月三十日播區ハ收量
 最も多ク品質亦良好ナ
 リ

三、播種期試験ノ三（宮城縣）

1. 目的的播種期試験ノ一二同ジ
 口、成績（自大正二年二月平均收量）

結 論	播種期		播種名	早生、福井白	中生、出来過	晚生、旭
	五月	六月				
早生、福井白及中生出来過ハ五月中下旬、晩生、旭ハ五月下旬ヨリ六月上旬迄ヲ播種ノ適 期ト認ム	五月 中旬 播區	五月 下旬 播區	早生、福井白	一石 五 三 一	一石 五 九 九	〇石 九 〇 四
	五月 下旬 播區	六月 上旬 播區	早生、福井白	一石 四 三 六	一石 三 七 九	〇石 九 七 五
早生、福井白及中生出来過ハ五月中下旬、晩生、旭ハ五月下旬ヨリ六月上旬迄ヲ播種ノ適 期ト認ム	五月 下旬 播區	六月 上旬 播區	早生、福井白	一石 四 三 六	一石 三 七 九	〇石 九 七 五
	六月 上旬 播區	六月 下旬 播區	早生、福井白	一石 三 八	一石 二 三 七	〇石 九 九 三

四、播種期試験ノ四（秋田、山形、福島縣）

イ、目的の播種期試験ノ一ニ同ジ
ロ、成績

播種期	秋田縣				山形縣				最上分場		赤葉		福島縣		
	岳種名不明 自明治三十二年 至三十五年 四年平均收量				本 自明治三十七年 至四十三年 六年平均收量				鶴ノ灰		自大正十三年 至昭和三年 五年平均收量		自明治三十年 至三十四年 五年平均收量		自昭和三年 至四年 二年平均收量
五月一日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、五	一、五	一、五	〇、八	〇、八	〇、八	〇、八
五月五日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
五月十日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
五月十五日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
五月十九日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
五月二十五日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
五月三十日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月一日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月五日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月九日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月十四日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月十八日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月二十二日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月二十六日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
六月三十日播區	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、三	一、三	一、三	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七

結論	六月二十日播區		六月二十三日播區		六月三十日播區	
	五月中旬ヲ播種ノ 適期ト認ム	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇
五月十日頃ノ早播 ヲ有利トス	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
同上	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
播種期ノ早キ程收量多シ	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
播種期ハ早キヲ可 トス	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
早播ヲ可トス	〇、九	〇、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

五. 播種期試験ノ五 (茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川縣)
 目的的播種期試験ノ一二同ジ
 口成績

播種期	茨城縣		栃木縣		埼玉縣		千葉縣		神奈川縣	
	自明治三十九年 至四十二年 平均收量	自明治四十三年 至四十六年 平均收量	昭和四年收量	昭和四年收量	自明治三十八年 至四十二年 平均收量	自昭和十三年 至十四年 平均收量	自明治四十二年 至四十四年 平均收量	自明治四十二年 至四十四年 平均收量	自明治四十二年 至四十四年 平均收量	自明治四十二年 至四十四年 平均收量
五月五日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月十日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月十五日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月二十日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月二十五日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月三十日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
五月下旬播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
六月一日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
六月四日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
六月十日播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六
六月上旬播區	〇. 八五二	〇. 九一三	一. 〇〇〇	一. 〇〇〇	一. 一五二	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六	一. 〇三六

結論	六月十五日播區		六月二十日播區		六月中旬播區		六月二十五日播區		六月三十日播區	
	小麥ノ畦間ニ播種スル場合ニ於テハ 六月十日頃ニ至リテ播種スルモ甚ダ シキ減收ヲ認メズ	〇. 七七九	一. 〇〇二	〇. 三八〇	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五
試験継続中	〇. 三八〇	一. 〇〇二	〇. 三八〇	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五
五月五日播區優位 ヲ占ム	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇
五月下旬ヲ良好ト 認ム	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 八七六	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇	〇. 五七〇
氣象状態ニ依リ異 ルモ平均收量ニ依 レバ五月下旬ヲ播 種ノ適期ト認ム	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五	〇. 八五五

六、播種期試驗ノ六（新潟、長野、岐阜、島根縣）

1. 目的の播種期試驗ノ一二同ジ

口、成績

播種期	新潟縣		長野縣		岐阜縣		島根縣	
	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播
四月十五日播区	二四三一	一九八九	二〇二二	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月一日播区	二五五八	一八三〇	二〇九九	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月十日播区	二一四九	一八〇二	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月十五日播区	二一四九	一八〇二	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月二十日播区	一七三三	一六五六	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月二十五日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
五月三十日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
六月一日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
六月五日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
六月十日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
六月十五日播区	一八二一	一六三七	二〇三七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七

播種期	新潟縣		長野縣		岐阜縣		島根縣	
	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播	早生赤豆	早生水播
六月二十一日播区	一五二八	一三九八	二〇七七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
六月二十五日播区	一五二八	一三九八	二〇七七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
七月一日播区	一五二八	一三九八	二〇七七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七
七月十日播区	一五二八	一三九八	二〇七七	一八一四	一六二九	一〇五三	九八八	一八九七

結論

五月十日期
後ヲ播種ノ
適期ト認ム

五月十日期
後ヲ播種ノ
適期ト認ム

五月十日期
後ヲ播種ノ
適期ト認ム

同

上

記載ナシ

同

上

早生、晩生共ニ播種早
キ程收量多シ

七、播種期試驗、七、(長崎、宮崎、鹿児島、沖縄縣)
 目的、播種期試驗、一、二、同ジ
 口、成績

播種期	長崎縣 (自昭和三年至四年平均收量)				宮崎縣 (自明治三十五年及三十七年平均收量)		鹿児島縣 (自大正六年及八年平均收量)		沖縄縣 (自大正十三年及昭和二年平均收量)	
	祇恩坊三一号	白目三〇号	目黒	生娘三号	御厨	早生金大豆	目大正五年	低アングラ	自昭三三年	至昭和二年
二月五日播区	〇.四五四	〇.五六五	〇.四七二	〇.一四六	〇.〇七五	〇.八一七	〇.六九八	〇.五六一	〇.三七八	〇.五一一
二月二十日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
三月五日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
三月二十日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
四月一日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
四月十五日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
四月二十日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
四月二十七日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
五月一日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
五月七日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一
五月十日播区	〇.四三三	〇.五七七	〇.三八四	〇.一六六	〇.四二九	〇.九三九	〇.六九八	〇.七四六	〇.三七八	〇.五一一

結論	五月十五日播区	五月十七日播区
試驗繼續中		
早播キノモノ 程收量多シ	〇.六一六	
両品種共大体ニ於テ四月中 旬ヲ播種ノ適期ト認ム而シ テ毛稈種ハ遅ルハヨリ早キ ヲ可トシ早生金大豆ハ前者 ニ比シ晩播ニテモ收量ヲ減 ズルコト少シ	〇.六五三	〇.四五四
二月二十日播 区最モ良好ナリ		

八、播種期試驗ノ八（北海道、青森、秋田縣）

1. 目的 大豆ヲ間作スル場合ニ於ケル播種ノ適期ヲ知ラムトス
口、成績

結 論	北 大		海 道		青 森 縣		秋 田 縣	
	本場 自大正十一年 至十三年 平均收量	檢山試作場 自大正十一年 至十三年 平均收量	美深試作場 自大正十一年 至十四年 平均收量	昭和四年 大豆間作 小麦間作 收量	秋田縣 品種不明 自明治三十九年 至四十一年 平均收量	秋田縣 品種不明 自明治三十九年 至四十一年 平均收量	秋田縣 品種不明 自明治三十九年 至四十一年 平均收量	秋田縣 品種不明 自明治三十九年 至四十一年 平均收量
五月十一日播區	一石二八〇	〇石七五五	〇石六五三	一石一三一	一石七五九	一石七八七	一石七八七	
五月十五日播區	一石一〇二	〇石七六四	〇石六四九	〇石八五七	一石八五四	一石八五四	一石八五四	
五月二十日播區	一石〇八六	〇石七九六	〇石六五六	一石二四九	一石七九九	一石七九九	一石七九九	
五月二十五日播區	一石〇八三	〇石七〇九	〇石五九一	〇石八九八	一石七六七	一石七六七	一石七六七	
五月三十日播區	一石〇七〇	〇石六〇二	〇石五九五	〇石五五一	一石七六七	一石七六七	一石七六七	
六月五日播區	一石〇六三	〇石五九一	〇石五九五	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
六月十日播區	一石〇五七	〇石五八五	〇石五八九	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
六月十五日播區	一石〇五二	〇石五八〇	〇石五八四	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
六月二十日播區	一石〇四七	〇石五七五	〇石五七九	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
六月二十五日播區	一石〇四二	〇石五七〇	〇石五七四	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
五月下旬ヲ播種 ノ適期ト認ム	〇石七〇二	〇石六〇二	〇石五九五	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
五月中旬ヨリ 期ト認ム	〇石七〇二	〇石六〇二	〇石五九五	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
試驗繼續中	〇石八九八	〇石五五一	〇石五五一	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	
播種ノ適期ハ五月 二十日前後ヲ標準 トシ晚クモ六月中 ニ行フヲ得ト認 ム	〇石八九八	〇石五五一	〇石五五一	〇石五五一	一石七三四	一石七三四	一石七三四	

九、播種期對播種量試驗（茨城縣）

1. 目的 小麦ノ間作トスル場合ニ於ケル大豆ノ播種期ト播種量
トノ關係ヲ驗知セムトス
口、供試品種 生娘

八、成績（自明治二十四年三ヶ年平均收量）

結 論	播種期		播種量		三 升 播 區		四 升 五 合 播 區		六 升 播 區	
	六月十五日播區	六月二十日播區	六月二十五日播區	六月三十日播區	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
六月十五日播區ハ各區共收量多ク品質亦良好ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ收量減ズルヲ播種量ヲ増加セバ大ナル減收ヲ來サズ依ツテ小麦刈取後直ニ播種スルヲ可ト認ム	一石〇六	一石〇三	一石〇一	一石〇〇	〇石八四	〇石九二	〇石八四	〇石九二	〇石九一	〇石〇〇
	一石〇六	一石〇三	一石〇一	一石〇〇	〇石八四	〇石九二	〇石八四	〇石九二	〇石九一	〇石〇〇
	一石〇六	一石〇三	一石〇一	一石〇〇	〇石八四	〇石九二	〇石八四	〇石九二	〇石九一	〇石〇〇
	一石〇六	一石〇三	一石〇一	一石〇〇	〇石八四	〇石九二	〇石八四	〇石九二	〇石九一	〇石〇〇
六月十五日播區ハ各區共收量多ク品質亦良好ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ收量減ズルヲ播種量ヲ増加セバ大ナル減收ヲ來サズ依ツテ小麦刈取後直ニ播種スルヲ可ト認ム	〇石六〇	〇石五八	〇石五七	〇石五五	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九
六月十五日播區ハ各區共收量多ク品質亦良好ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ收量減ズルヲ播種量ヲ増加セバ大ナル減收ヲ來サズ依ツテ小麦刈取後直ニ播種スルヲ可ト認ム	〇石六〇	〇石五八	〇石五七	〇石五五	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九
六月十五日播區ハ各區共收量多ク品質亦良好ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ收量減ズルヲ播種量ヲ増加セバ大ナル減收ヲ來サズ依ツテ小麦刈取後直ニ播種スルヲ可ト認ム	〇石六〇	〇石五八	〇石五七	〇石五五	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九
六月十五日播區ハ各區共收量多ク品質亦良好ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ收量減ズルヲ播種量ヲ増加セバ大ナル減收ヲ來サズ依ツテ小麦刈取後直ニ播種スルヲ可ト認ム	〇石六〇	〇石五八	〇石五七	〇石五五	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九	〇石五九

一。播種量試驗（宮城、埼玉、沖繩縣）
 1. 目的 播種ノ適量ヲ知ラムトス
 口。成績

七升播區	六升播區	五升播區	四升播區	三升播區	二升播區	一升五合播區	一升播區	七合五勺播區	六合播區	五合播區	宮城縣 自大正十五年 至昭和四年 四年平均收量	埼玉縣 自大正七年 至昭和九年 三年平均收量	沖繩縣 自大正五年 至昭和十二年 四年平均收量	沖繩縣 自大正十三年 至昭和二年 四年平均收量
一五五六	一三九四	一三三三	一三一三	一〇七八	〇九二七	〇七四九	〇六五二	〇石 二五	〇石 二五	〇石 二五	〇石 二五	〇石 二五	〇石 二五	
(3)											〇石 二五	〇石 二五	〇石 二五	
〇石 一五	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三	

(備考) 宮城縣ニ於テハ各區共條播トス

結論	八升播區	九升播區	一斗播區
種子ノ大小ニヨリ異ナルベシト雖モ反當三升乃至四升ヲ可トスルモノ、如シ	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三
四升播區最モ收量多ク之ヨリ播種量ヲ減スルニ從ヒ適域又反當四升ヲ適當ナリト認ム	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三
六升播區迄順次收量増加ノ傾向アリ	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三
九升播區迄順次收量増加ノ傾向アリ	〇石 一三	〇石 一三	〇石 一三

一、播種量及畦幅對播種法試驗（山形縣最上分場）
 1. 目的 畦幅及播種量ト播種法トノ關係ヲ知ラムトス
 口 供試品種 白八石
 八、成績（自大正十年三年平均收量）

結 論	播種法	畦幅及播種量		
		畦幅	播種量	
播種量ノ多少ニ拘ラズ点播ノ距離大ナレバ收量ヲ減ジ且ツ畦幅ハ廣キヲ可トスルカ如シ	點播 株間五寸區	一石	三三六	
		一石	一一三七	
	點播 株間一尺區	一石	一〇八二	
		一石	一〇六二	
	條播 區	一石	一四一〇	
		一石	一〇一九	
	畦幅二尺	三井播區	一石	二二八
		五井播區	一石	一六六
	畦幅二尺五寸	三井播區	一石	二二八
		五井播區	一石	一六六
	畦幅三尺	三井播區	一石	三五四
		五井播區	一石	二二〇
畦幅三尺五寸	三井播區	一石	二二〇	
	五井播區	一石	一六五	

一、播種量對播種法試驗ノ一（神奈川縣）
 1. 目的 播種法ト播種量トノ關係ヲ知ラムトス
 口 供試品種 刈羽龍谷
 八、成績（自大正三年三年平均收量）

結 論	播種法	株間		
		五寸區	一尺區	
記載ナシ	三井播區	一石	一九三	
		一石	一〇九	
	四井播區	一石	一〇七	
		一石	一〇七	
	六井播區	一石	一〇七	
		一石	一〇七	
	七井播區	一石	一〇七	
		一石	一〇七	
	畦幅二尺	三井播區	一石	一九三
		五井播區	一石	一〇九
	畦幅二尺五寸	三井播區	一石	一九三
		五井播區	一石	一〇九
畦幅三尺	三井播區	一石	一九三	
	五井播區	一石	一〇九	
畦幅三尺五寸	三井播區	一石	一九三	
	五井播區	一石	一〇九	

一三、播種量對播種法試驗ノ二 (三重縣)

イ、目的 播種量對播種法試驗ノ一ニ同ジ
 口、供試品種 蔓大豆
 ハ、成績 (自明治三十三年三年平均收量)

播種粒數	播種法		
	點	播	條
二粒播區	〇石四二	〇石四三	〇石五九
四粒播區	〇石五四	〇石四八	〇石六七
六粒播區	〇石五八	〇石四九	〇石七九

(備考) 条播区ノ株間ハ各区共九寸ニシテ條播区ハ九寸ノ間隔中ニ
 試驗区名ノ如ク四粒又ハ六粒ヲ條播セルモノトス

一四、品種對播種粒數試驗 (山形縣)

イ、目的 品種ト一株ノ播種粒數トノ關係ヲ驗知セントス
 口、成績 (自明治四十三年六年平均收量)

播種粒數	品種名		
	糶	不	元
一粒播區	一石三六一	一石八五三	一石三四九
二粒播區	一石七九七	二石一三三	一石四四〇
三粒播區	一石八〇五	二石三七五	一石六一四

各品種共三粒播區最モ收量多ク粒數ヲ減スルニ從ヒ收量ヲ減ス

一五、本数試験（秋田縣）

1. 目的の 一株ノ本数ヲ異ニシ其ノ得失ヲ比較セムトス
 口、供試品種 不明
 八、成績

試驗區名	自明治三十年至三十二年三ヶ年平均收量	結	論
一本立區	一石四二〇	三本立區最モ收量多シ	
二本立區	一石六一六		
三本立區	一石八五七		

一六、生育領域ニ關スル試驗（北海道）

1. 目的 栽培ノ粗密ガ大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セン
 口、成績

一尺五寸畦	株間五寸		株間一尺		株間七寸五分		株間五寸		十勝支場 自大正十二年 至昭和元年 四ヶ年平均收量	瀬棚試作場 自大正十一年 至昭和十三年 三ヶ年平均收量	日高試作場 自大正十年 至十四年 四ヶ年平均收量	大谷地 自大正十年 至十四年 四ヶ年平均收量	自大正十年 至十四年 四ヶ年平均收量		
	一粒區	二粒區	三粒區	一粒區	二粒區	三粒區	一粒區	二粒區						三粒區	一粒區
一石四一二	一石五三七	一石六〇七	一石四〇八	一石六六五	一石六一八	一石三九七	一石四一七	一石〇七九	一石〇七九	一石四一〇	一石四六七	一石四六七	一石四一四	一石四一四	一石四一四
一石〇七九	一石一六七	一石一六九	一石〇一六	一石二一六	一石二一六	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四
一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四	一石四一四

結 論	二尺畦						一尺七寸五分畦				
	株間一尺		株間七寸五分		株間五寸		株間一尺		株間七寸五分		
	三粒区	二粒区	三粒区	二粒区	三粒区	二粒区	三粒区	二粒区	三粒区	二粒区	
畦幅一尺七寸五分乃至 二尺株間五寸乃至七 寸五分一株三粒播良 好ナリ	一 四 七 九	一 五 〇 〇	一 六 一 五	一 六 二 五	一 八 六 五	一 七 八 一	一 五 〇 一	一 七 七 八	一 七 五 六	一 七 九 九	一 五 八 一
畦幅一尺七寸五分乃 至二尺株間五寸一株 三粒播良好ナリ	一 一 〇 〇	一 〇 四 二	一 二 二 五	一 〇 〇 一	一 二 四 一	一 二 四 五	一 一 五 二	一 〇 三 七	一 九 七 五	一 四 五 五	一 一 一 一
大谷地ハ畦幅一尺五寸株間七寸五分ノ三粒播区良好ニ シテ蘭越三石大豆ハ畦幅一尺五寸株間一尺ノ三粒播 区良好ナルヲ認ム											

三〇

一七、播種量對肥料用量試驗 (茨城縣)

イ、目的 播種量ト肥料用量トノ關係ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 生娘
 ハ、成績 (昭和三年三年三年平均收量)

結 論	播種量		標準肥料区	同上二割五分増区	同上五割増区
	肥料用量	標準肥料区			
標準肥料五割増三升播区收量多シ、肥料用量ノ如何ニ不拘播種量ノ多少ハ收量ニ甚シキ影響ヲ及ボ サザルガ如シ	二升播区	〇石 九四八	同上	一石 〇四五	一石 一四〇
	三升播区	〇 九七七	同上	一石 〇六二	一石 一四二
	四升播区	〇 九七七	同上	一石 〇五八	一石 一四七
	五升播区	〇 九七五	同上	一石 〇五八	一石 一四七

(備考) 標準肥料区ノ反當施肥量ハ堆肥一〇〇貫、硫酸一貫、精過磷酸石
 灰五貫二五。又葉灰五貫又トス

一八、畦幅試驗ノ一（福島、福井、宮崎、鹿児島縣）
 一、目的 適當ナル畦幅ヲ知ラムトス
 口、成績

結 論	畦幅	福島縣		福井縣		宮崎縣		鹿児島縣	
		自明治三十四年	至昭和三年	自大正十三年	至昭和六年	自明治三十四年	至昭和三年	自大正十三年	至昭和六年
作業及後作ニ關係ナキ 限リ狭畦ヲ有利トス 前品種共畦幅ノ狭キヲ有利ナリト認ム 一尺五寸區最モ收量多ク是ヨリ廣クナルニ從ヒ漸減スルモノ、如シ 畦幅ノ廣狹ハ收量ニ大ナル關係ナシト認メラ	一尺二寸畦區	一石四七四	一石五九七	一石五九二	一石八四〇	〇石五五二	〇石五五二	〇石五五二	〇石五五二
	一尺五寸畦區	一石四七四	一石四六六	一石四一九	〇石七三三	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八
	一尺八寸畦區	一石四七四	一石三九八	一石三二八	〇石七三三	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八
	二尺畦區	一石四七四	一石三九八	一石三二八	〇石七三三	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八
	二尺二寸畦區	一石四七四	一石三九八	一石三二八	〇石七三三	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八
二尺五寸畦區	一石四七四	一石三九八	一石三二八	〇石七三三	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	〇石五二八	

（備考）福井縣ニ於ケル各區ノ株間ハ一尺トシ一株ニ粒播トス

一九、畦幅試驗ノ二（茨城縣）

一、目的 畦幅ノ廣狹ガ麥作及間作タル大豆ニ及ボス影響ヲ知ラ

口、供試品種 大豆生娘、大麥穂楠、小麥富國
 八、成績 （自明治四十四年元四年ニケ年平均收量）

結 論	畦幅	大豆收量		大麥收量		小麥收量	
		大麥跡地	小麥跡地	大麥收量	小麥收量	大麥收量	小麥收量
大豆收量ニ於テ二尺畦區最モ良好ナリ	一尺六寸畦區	〇石九五五	〇石八一六	三石四八七	二石二六二	三石四八七	二石二六二
	一尺八寸畦區	一石〇一五	〇石九三〇	三石六三八	二石三〇二	三石六三八	二石三〇二
	二尺畦區	一石〇九三	〇石九〇五	三石六二二	二石二二六	三石六二二	二石二二六
	二尺二寸畦區	〇石九二六	〇石九三五	三石五〇八	二石一三三	三石五〇八	二石一三三
	二尺五寸畦區	〇石九二六	〇石九三五	三石五〇八	二石一三三	三石五〇八	二石一三三

二。株間試験ノ一 (秋田、山形、栃木縣)

イ。目的 適當ナル株間ヲ知ラムトス

株間	秋田縣		山形縣		栃木縣
	白	赤	早	中熟大豆	
三寸區	一石七七	二石〇九	一石三九	一石七七	一石三三
五寸區	一石六七	一石八一	一石三七	一石五〇	一石二四
六寸區	一石九〇	一石六一	一石六五	一石五九	一石三〇
七寸區	一石〇〇	一石六九	一石六一	一石五七	一石二七
八寸區	一石〇〇	一石七九	一石六六	一石五九	一石二七
九寸區	一石〇〇	一石八七	一石六七	一石七〇	一石二七
一尺區	一石八五	一石六六	一石六一	一石七〇	一石二六
一尺二寸區	一石六四	一石六一	一石三〇	一石七八	一石二六
一尺五寸區	一石四五	一石六一	一石三三	一石八三	一石二四

年ニ依リ成績区々ナルモ陸羽二三号ニアリテハ株間狭キモノ程收量多ク白莢ニアリテハ七寸區優レリ普通五寸乃至一尺範圍ヲ適當ト認ム

早種、中熟大豆共六寸區最モ收量多ク晩生、五造ハ八寸區收量多シ一般ニ早生中生ハ株間狭キヲ可トシ晩生ハ稍々廣キヲ可トス

試験継続中

二。株間試験ノ二 (島根、宮崎縣)

イ。目的 株間試験ノ一ニ同ジ

口。成績

株間	島根縣		宮崎縣	
	玉	赤	玉	赤
六寸區	〇石九九	一石七六	〇石〇〇	一石〇三
八寸區	〇石九九	一石六八	〇石〇七	一石〇六
一尺區	〇石七二	一石五三	〇石〇七	一石〇三
一尺二寸區	〇石七一	一石五二	〇石〇六	一石〇三

株間距離近キ程成績良好ナリ

株間廣キニ從ヒ收量遞減スルモノ如シ



二、株間對畦幅試驗 (沖繩縣)

1. 目的 適當ナル播種距離ヲ知ラムトス
 口 供試品種 低アングー
 八 成績 (自大正五年ニケ年平均收量)

結 論 記 載 ナ シ	株間 三寸區	一尺畦區	一尺二寸畦區	一尺五寸畦區
	五寸區	〇石三九	〇石三七	〇石一
	八寸區	〇石二四	〇石四五	〇石一八九
	株間 七寸區	〇石二七	〇石四一	〇石一八

二三、株間對肥料用量試驗 (新潟縣)

1. 目的 株間ノ廣狹ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 口 成績

普通肥料	株間五寸區	自大正九年 至十二年 四年平均收量	川科瀧谷	自大正十三年 至十五年 三年平均收量	赤	長	秋	田	八	石
	七寸區	一石九四二	一石三二四	一石七三七	一石一六二	一石五二二	一石〇八六	一石〇六八	一石〇四四	一石〇四四
普通肥料	株間五寸區	一石三六五	一石〇三九	一石四九二	〇石八三八	一石二四七	一石〇四四	一石〇四四	一石〇四四	一石〇四四
普通肥料	株間五寸區	一石一三七	一石三四一	一石七六五	一石四四八	一石六七七	一石二三四	一石二三四	一石二三四	一石二三四
普通肥料	株間七寸區	一石九六六	一石二〇九	一石六三一	一石三七四	一石五二四	一石二〇六	一石二〇六	一石二〇六	一石二〇六
普通肥料	株間七寸區	一石四九七	〇石八六二	一石五八七	一石二三〇	一石三五五	一石一〇二	一石一〇二	一石一〇二	一石一〇二
普通肥料	株間七寸區	一石四一七	〇石八六二	一石五八七	一石二三〇	一石三五五	一石一〇二	一石一〇二	一石一〇二	一石一〇二

結 論	普通肥料十割増	一尺五寸区	一、三六八
	一尺区	一、七五〇	
結 論	肥料用量ノ多少ニ拘ラズ株間ノ狭キモノ收量多シ	一、三〇六	
	肥料用量ノ多少ニ拘ラズ株間ノ狭キモノ收量多シ		
結 論	肥料用量ノ多少ニ拘ラズ株間ノ狭キモノ收量多シ		
	肥料用量ノ多少ニ拘ラズ株間ノ狭キモノ收量多シ		

(備考) 普通肥料區ノ及當施肥量ハ人尿三〇貫、葉灰二〇貫、灰ニシテ自
大正十三年至十五年試驗及自大正十五年至昭和四年試驗ハ
何レモ一株一本立トス

二四、播幅試驗 (茨城縣)
イ、目的 播幅ノ廣狹ガ品質收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
ロ、成績

結 論	標準	二寸	一、三六八	自大正十二年 至十四年三年平均收量
	播幅	八寸	一、九〇五	自大正十一年 至十四年四年平均收量
結 論	播幅	六寸	一、六七六	
	播幅	四寸	一、五一二	
結 論	播幅	二寸	一、三六一	
	播幅	八寸	一、九〇五	

二五、播種法試験ノ一（北海道）

イ、目的 適當ナル播種法ヲ知ラムトス
 口、供試品種 豊永又ハ大谷地
 ハ、成績

試験區名	條播						點播	
	三升播區	四升播區	五升播區	六升播區	七升播區	五寸播區	七寸五分播區	
自明治四十三年 至大正四年 六年平均收量	〇石 九	〇 九	一 〇	一 〇	一 〇	一 〇	一 〇	
株間五寸ノ點播ヲ有利ト認ム								
結 論								

（備考）畦幅八二尺トシ點播區ハ一株三粒播トス

二六、播種法試験ノ二（福島、埼玉、山形縣）

イ、目的 條播ト點播ノ優劣ヲ知ラムトス
 口、成績

備考	結論	條播區		自明治三十年 至三十四年 五年平均收量	福島 赤島 莖縣	條播區		自大正七年 至九年 三年平均收量	埼玉 埼玉 一號縣	條播區		自明治三十七年 至四十一年 五年平均收量	山形 形縣					
		一石	八			一石	三			一石	七			一石	七			
條播區ハ三升播 區ハ株間一尺トス	條播ヲ可トス	一	七	八	〇	二	〇	〇	〇	一	七	六	五	一	八	一	九	六
條播區ハ株間六寸二粒 播トス	條播區收量多ク且ツ 上ヨリ見ルモ點播區ハ 方ル	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
條播區ハ三升播トス	大粒種不入ハ路 著シク優レリ	一	七	六	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

二七、播種法試験ノ三（栃木、島根、佐賀、宮崎、沖繩縣）
 一、目的の播種法試験ノ二ニ同ジ
 口、成績

備考	結論	條播區	點播區	成績
	年二依り成績相反スルヲ以テ結論ヲ付シ難シ	一〇九二五	一〇三七	栃木縣 自明治三十九年 至昭和四年平均收量
條播區ハ畦間一尺二寸 反當ハ畦間四合播トシ 尺播區ハ畦間二尺株間一 尺一株三粒播トス	點播ハ收量多ク且ツ播種量ヲ節約シ得ルヲ以テ有利ナリト認ム	一〇一五五	一〇一九	島根縣 自明治三十二年 至昭和四年平均收量
	條播ハ其播ニ比シ收量多シ	一〇六七九	一〇五〇九	佐賀縣 自明治三十八年 至昭和四年平均收量
各區共反當四外五合播ニシテ其播區ハ株間六寸一株三粒播トス	ルガ如シ	〇九七八	〇九七八	宮崎縣 自明治三十五年 至昭和四年平均收量
條播區ハ一尺二寸畦六尺ニシテ其播區ハ一尺二寸畦株間五寸一株三粒播トス	記載ナシ	〇一四六	〇二〇七	沖繩縣 自大正五年 至昭和四年平均收量

二八、播種法試験ノ四（福島縣）

一、目的の播種法試験ノ一二同ジ
 口、成績

試驗區名	自昭和十二年		平均收量	結論
	至昭和十二年	平均收量		
點播 株間一尺二粒播區 株間五寸一粒播區	一〇三七九	一〇三六〇	一〇三六〇	千島播ヲ可トス
	一〇四〇三	一〇三三八	一〇三三八	
千島播 (株間五寸)區	一〇四八四	一〇五二七	一〇五二七	

(備考) 各區共畦幅ヲ二尺五寸トス

二九、播種法試驗ノ五（福島縣）

1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ

口 供試品種 赤莖

ハ 成績

試驗區名	至自明治三十四年七ヶ年平均收量	結果
普通播區	一石六五〇	穴播ヲ可トス
穴播區	一石七〇七	
結論		結論

三〇、播種法試驗ノ六（青森、岩手縣）

1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ

口 成績

結論	條播區	一石二八九	至自青森縣 大正五年 三ヶ年平均收量
	點播區	一石〇七三	至自岩手縣 明治三十五年 三ヶ年平均收量
株間一尺二寸區	一粒播區	一石三九〇	條播最モ收量多シ
	二粒播區	一石二〇二	
株間八寸區	一粒播區	一石四七五	
	二粒播區	一石三〇二	

（備考）青森縣ハ各區共畦幅二尺トス

三一、播種法試驗ノ七（岩手縣愛宕試驗地）

1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ
 口 供試品種 岩手ヤギ一藩
 八、成績

結 論	試 驗 區 名						至昭和十一年 七ヶ年平均收量
	株間二寸五分 一本立區	株間五寸 二本立區	株間六寸 二本立區	株間七寸五分 二本立區	株間八寸 二本立區	株間一尺 二本立區	
株間八寸内外ノ千鳥播、又ハ一株二本立ノモ、適當ト認ム	一	二	七	七	一	一	至大正九年 二ヶ年平均收量
株間七寸五分ニ本立区ヲ適當ト認ム	一	一	一	一	一	一	(6)

三二、播種法試驗ノ八（青森、宮城、福島、埼玉、島根縣）

1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ
 口 成績

株間	一 粒 播						至昭和四年 平均收量
	株間二寸区	株間三寸区	株間五寸区	株間六寸区	株間八寸区	株間一尺区	
青森縣五戸分場	〇.九六九	〇.〇一	〇.〇一	〇.〇一	〇.〇一	〇.〇一	至自昭和三十四年 平均收量
宮城縣	—	—	—	—	—	—	至自大正十五年 平均收量
福島縣	一.八四二	一.五七五	一.六一五	一.五三一	一.五三一	一.九三七	至自明治三十四年 平均收量
埼玉縣	一.〇九〇	一.〇二七	一.〇二七	一.〇二七	一.〇二七	一.〇二七	至自明治三十九年 平均收量
島根縣	〇.八二三	〇.八八九	〇.八八九	〇.八八九	〇.八八九	〇.八八九	至自昭和四年 平均收量

三三、播種法試験ノ九（群馬縣）
 1. 目的 播種法試験ノ一ニ同シ
 口 供試品種 狐英
 ハ 成績

試験區名	自明治三十六年 至三十七年 二年平均收量	結果	論
二尺畦 二升播區	〇石 六三二	一尺畦 三升播區 遙ニ優ル	
一尺畦 三升播區	〇石 九三一		

結論	二粒播				
	六寸區	七寸五分區	八寸區	一尺區	一尺二寸區
試驗繼續中ニ屬スル 概シテ二粒播成績 良好ナリ	一、五六二	一、五二〇	一、四八二		
試驗繼續中	一、三一八		一、〇九		
土地ノ肥瘠、施肥ノ 多寡、品種ニヨリ異 ルベキモ概シテ密播 有利ナリ	一、七七一	一、六九六	一、六三六	一、四七〇	
一粒播區ニ粒播區大 株間距離ノ狭キニ從 ヒテ收量ヲ増加シニ 粒播ハ一粒播ニ比シ 各區ヲ通シテ收量多シ	一、〇〇四	〇、九八八	〇、八二九		
試驗繼續中	〇、九五六	〇、五六一			

三四、播種法試驗ノ一。(群馬縣)

1、目的 播種法試驗ノ一二同ジ
 口、成績 (昭和十四年五年平均收量)

播種法	五ノ目一粒播						一粒直線播					
	株間 三寸	株間 四寸	株間 五寸	株間 六寸	株間 七寸	株間 八寸	株間 三寸	株間 四寸	株間 五寸	株間 六寸	株間 七寸	株間 八寸
品種名	〇	一	〇	一	一	〇	一	八	六	五	四	一
借金	八	〇	八	〇	二	九	〇	一	〇	〇	〇	〇
十	三	三	八	一	四	五	四	八	三	一	二	四
シ	五	一	九	七	五	五	九	三	九	九	三	五
鬼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	一	一	一	〇
稈	七	八	八	九	八	七	〇	〇	〇	〇	〇	九
	六	四	七	二	八	七	〇	五	七	二	〇	八
	二	七	九	五	四	九	八	七	七	九	八	三

五〇

結論	二粒直線播					
	株間 六寸	株間 八寸	株間 一尺	株間 一尺二寸	株間 一尺三寸	株間 一尺四寸
試驗繼續中	(3)	(3)				
	一	一				
	〇	一				
	八	五				
	五	〇				
	(2)	(2)	(2)	(2)		
	〇	〇	〇	〇		
	七	九	九	八		
	五	三	一	六		
	五	八	三	八		

三五. 播種法試驗ノ一一(神奈川縣)
 1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ
 口 供試品種 刈羽龍谷
 八. 成績 (自明治四十二年三年平均收量)
 至自明治四十四年

株間	株間		株間		株間	
	一尺二寸區	八寸區	一尺二寸區	八寸區	一尺二寸區	八寸區
一粒播區	0.59	0.75	0.59	0.75	0.59	0.75
二粒播區	0.59	0.75	0.59	0.75	0.59	0.75
三粒播區	0.59	0.75	0.59	0.75	0.59	0.75
四粒播區	0.59	0.75	0.59	0.75	0.59	0.75
五粒播區	0.59	0.75	0.59	0.75	0.59	0.75

播種量同ジ場合ハ株間ノ距離廣キ程收量ヲ減ジ播種量多キモノハ少キモノニ優ルト雖株間ノ距離狭キ場合ハ播種量ノ多少ハ收量ニ及ボス影響割合ニ少シ

三六. 播種法試驗ノ一二(岐阜縣飛騨分場)
 1. 目的 播種法試驗ノ一二同ジ
 口 供試品種 連磨二聯
 八. 成績

株間	株間		株間		株間		試驗區名	至自大正十三年三年平均收量	至自大正十四年四年平均收量
	一尺區	八寸區	一尺區	八寸區	一尺區	八寸區			
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	
二本立區	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.2	

(備考) 各區ノ畦幅ハ自大正十三年至十五年試驗ニ於テハ二尺五寸トシ自大正十四年至昭和四年試驗ニ於テハ二尺八寸トシ

三七、播種法試験ノ一三（熊本縣）

一、目的 麥、大豆、粟ノ三毛作ヲ為ス場合ニ於ケル大豆ノ適當ナル播種法ヲ知ラムトス

口、供試品種 八石

ハ、成績

試験區名	自昭和十一年八月平均收量	結 論
一、畦幅三尺、播幅五寸區	〇 七 八	第一區ハ大豆收量多キノミナラズ粟ノ收量亦増加シ且ツ労力ノ節約並ニ分配上有利ナリ
二、畦幅五尺、播幅一尺五寸區	〇 五 二	

（備考）第一區ハ普通農家ノ行ヒツ、アル方法ニシテ麥ノ畦幅ヲ三尺トシ其ノ間作トシテ二條ノ夏大豆ヲ栽培シ、更ニ其ノ間作トシテ各畦間ニ粟ヲ作付セルモノニシテ第二區ハ五尺畦ニ麥ヲ一尺五寸幅ニ播下シ其ノ間作トシテ大豆ヲ三條作付シ更ニ麥ノ刈株ヲ整理シテ麥同様ニ粟ヲ作付スルモノトス

三八、播種法試験ノ一四（長崎縣）

イ、目的 草丈ノ長短ニヨリ種々ノ組合セ栽培ヲナシ之ガ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

口、供試品種 茶大豆又ハ白目

ハ、成績

試験區名	自大正十一年二月平均收量	結 論
一、草丈ノ短カキモノト高キモノトヲ交互ニ筋播セル區	〇 六 四 五	第三區、第五區ノ如ク廣播トシ草丈ノ高キモノト低キモノトヲ多少ノ隔リヲ以テ混播セルモノノ良好ナリ
二、草丈ノ短カキモノ及高キモノ各半部宛區別シテ播種セル區	〇 七 八 一	
三、草丈ノ短カキモノト高キモノトヲ五寸幅中ニ各二分五厘宛ニ條ニ播種セル區	〇 九 一 六	
四、草丈ノ短カキモノト高キモノトヲ一株毎ニ交互ニ交播セル區	〇 七 二 〇	
五、一尺ノ播幅中ニ中央ニ草丈高キモノ、両方ニ五寸ヲ隔テ草丈短カキモノヲ播種セル區	〇 八 一 三	
六、株間ノ方向ヲ第一區ト異ニシテ播種セル區	〇 六 三 五	
七、草丈高キモノト短カキモノトヲ混合シ莫播セル區	〇 八 四 八	

三九、整地對播種法試驗 (新潟縣)

イ、目的 畦ノ廣狹、高低及播種法ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ

知ラムトス

口、供試品種 晩生赤英
ハ、成績 (自明治四十二年三ヶ年平均收量)

整地法	播種法		條播區	二條播區
	一尺八寸畦	二尺二寸五分畦		
畦	高畦	高畦	一石	二石
	平畦	平畦	一石	二石
結	高畦	高畦	一石	二石
	平畦	平畦	一石	二石

各區共一條播區ハ二條播區ヨリ收量多ク畦幅ノ廣キモノハ狭キモノヨリ收量少ク又畦ノ高低ト收量トノ關係ハ各區一様ナル傾向ヲ示サズ

四〇、播種法對肥料用量試驗ノ一 (岩手縣)

イ、目的 播種法ト肥料用量トノ關係ヲ知ラムトス

口、供試品種 ヤギ

ハ、成績

普通肥料		本場		恒念河試驗地		愛宕試驗地	
坪二〇株播	坪三〇株播	坪二〇株播	坪三〇株播	坪二〇株播	坪三〇株播	坪二〇株播	坪三〇株播
一株一本立	一株二本立	一株一本立	一株二本立	一株一本立	一株二本立	一株一本立	一株二本立
無摘心區	摘心區	無摘心區	摘心區	無摘心區	摘心區	無摘心區	摘心區
四六.四四三	五二.七〇一	五〇.六二七	五〇.六二七	〇.七九〇	〇.七九〇	一.二〇八	一.二〇八
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五〇.六二七	一.二六〇	一.二六〇	一.二六一	一.二六一
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	〇.九二二	〇.九二二	一.〇九七	一.〇九七
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇一	一.〇〇一	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四
五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.二九九	一.二九九
五二.七〇一	五〇.六二七	五二.七〇一	五〇.六二七	一.〇〇〇	一.〇〇〇	一.〇七四	一.〇七四

結 論	五割増肥料											
	坪三〇株播				坪二〇株播							
坪三〇株播	一株一本立		一株二本立		一株一本立		一株二本立		一株一本立		一株二本立	
	無摘心区	摘心区	無摘心区	摘心区	無摘心区	摘心区	無摘心区	摘心区	無摘心区	摘心区	無摘心区	摘心区
普通肥料ニ於テハ坪三〇株播五割増肥料ニテハ坪二〇株播ヲ適當ト認ム	四八	四四	四五	四七	四七	五三	五一	四五	四九	五六	四八	四五
	九三	八一	〇八	二六	六五	二四	一九	七三	〇九	六〇	〇八	二八
	二二	三三	二二	六一	三三	六六	一一	〇〇	九五	一一	四四	二八
	一三	〇〇	〇八	一八	二二	〇九	一一	二二	三三	四四	一一	二二
	〇〇	〇〇	〇八	一五	二二	〇九	一一	二二	三三	四四	一一	二二
	一〇	二一	一四	一七	〇九	一一	二二	三三	四四	一一	二二	三三
	三四	一〇	一四	一七	〇九	一一	二二	三三	四四	一一	二二	三三

四、播種法對肥料用量試驗ノ二（新潟縣）

- イ、目的 肥料及株數ノ増加ガ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
- ロ、供試品種 早生水粍
- ハ、成績

試 験 區 名	自明治四十四年 至大正三年 四年平均收量	結 論
二尺二寸五分畦、株間七寸、普通肥料区	一、三、八	畦幅及株間ヲ狭クシ施肥量ヲ増加セバ相當收量ヲ増加ス
一尺八寸畦、株間六寸、二割増肥料区	一、四、六	
一尺八寸畦、株間六寸、三割増肥料区	一、五、三	

（備考）普通肥料区ノ反當施肥量ハ人尿三〇貫、葉灰二五貫、又トス

四二、播種法對肥料用量試驗ノ三（鹿兒島縣）

イ、目的 播種法對肥料用量試驗ノ一二同ジ
 口、供試品種 黃茨又ハ毛裸三辨
 八、成績（自昭和三年ニケ年平均收量）

六〇

播種法	肥料用量		普通肥料區	同上三割増區
	條播	點播		
點播	五寸區	一尺區	〇・八九一	〇・七九〇
條播	五寸區	一尺區	〇・八〇三	〇・七九六

結論 試驗繼續中ニ屬スルモ大体ニ於テ條播ヲ可トシ點播ニ於テハ株間距離近キニ利アリ

（備考）普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥一〇〇貫通磷酸石灰一貫五〇〇
 又葉灰九貫又トス

四三、覆土試驗（青森縣）

イ、目的 覆土ノ深淺ガ大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムト

口、供試品種 不明
 八、成績

試驗區名	自大正五年 至大正六年 ニケ年平均收量	結	論
五分覆土區	一石四六八	二十寸覆土區最モ良好ナリ	
一寸覆土區	一石七三五		
三寸覆土區	一石九三三		

四四、鎮壓法試驗 (北海道)

イ、目的 鎮壓方法が榮芽及生育ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 大谷地
 ハ、成績

試驗區名	自大正十三年 至昭和二年 四年平均收量	結 載 ナ シ	論
平鋤ニテ鎮壓セル區	一石七六〇	記載ナシ	論
平鋤ニテ輕ク鎮壓セル區	一石七二八		
足ニテ輕ク鎮壓セル區	一石八六八		
足ニテ堅ク鎮壓セル區	一石八二〇		
重キ「ローラー」ニテ鎮壓セル區	一石七六六		

四五、移植對直播比較試驗ノ一 (福島 三重縣)
 イ、目的 移植ト直播トノ優劣ヲ比較セムトス
 ロ、成績

結論	福島 赤 荳 縣		在 米 種		頭 明 種		不 明 種	
	自明治三十六年 至四十二年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量	自明治三十二年 至三十四年 平均收量
移植區 直播區	一石三五八	一石三九〇	〇石三五八	〇石三九〇	一石二八八	一石二八三	一石〇〇三	一石〇〇四
	一石五〇四	一石五〇九	〇石三八一	〇石三九一	一石二八八	一石二八三	一石〇〇三	一石〇〇四

(備考) 福島縣ニ於ケル直播區ハ六月二十日播 (晚播) ニシテ移植區
 ハ五月二十日播六月十日植トス

四六、移植對直播比較試驗ノ二（新潟縣）

1. 目的 移植ノ適期ヲ驗スルト共ニ直播トノ優劣ヲ比較セント

口 供試品種 晚生赤莢
 八 成績（昭和五年四年平均收量）

移植又ハ直播ノ別	直播區	移植區	結論
六月五日區	一石三三七	一石四九〇	各期共移植區ハ直播區ヨリモ收量多ク又播種期、移植期ノ遅ルハニ從ヒ收量漸減セリ
六月十日區	一石二八〇	一石三三三	
六月二十日區	一石〇七七	一石二九七	
六月三十日區	〇石八八七	一石〇七一	

（備考）移植區ハ各區共移植期ノ十五日前ニ播種セルモノトス

第四、耕鋤間引、摘葉摘心收穫等ニ關スル試驗

1. 目的 耕鋤ノ適期ヲ知ラムトス
 口 成績

結論	春期耕鋤		秋期耕鋤區	本場 自明治三十九年 至四十二年 三年平均收量	十勝支場 自大正五年 至九年 四年平均收量	十勝支場 高地試驗地 自大正五年 至十二年 七年平均收量
	早耕（融雪早々）區	中耕（早耕区ト晩耕区ト中間期）區				
春期耕鋤區	一石二六八	一石一〇〇	一石三六八	春期耕鋤區、春夏秋三期耕鋤區收量多キヲ認ム	秋期耕鋤區ノ收量多キヲ認ム	春秋二期耕鋤區收量多キヲ認ム
	一石四九二	一石一〇一	一石三六八			
	一石四九二	一石一〇一	一石三六八			
	一石四九二	一石一〇一	一石三六八			
春秋二期耕鋤區	一石三六六	一石二四四	一石五五七			
春秋二期耕鋤區	一石三六六	一石二四四	一石五五七			
春秋二期耕鋤區	一石三六六	一石二四四	一石五五七			
春秋二期耕鋤區	一石三六六	一石二四四	一石五五七			

二、耕鋤深淺試驗（北海道）

1. 目的 耕鋤ノ深淺ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントス

口、成績

結論	本赤					渡大島谷支地					十勝支場高丘地試驗地				
	三寸耕鋤區	四寸耕鋤區	五寸耕鋤區	六寸耕鋤區	七寸耕鋤區	三寸耕鋤區	四寸耕鋤區	五寸耕鋤區	六寸耕鋤區	七寸耕鋤區	三寸耕鋤區	四寸耕鋤區	五寸耕鋤區	六寸耕鋤區	七寸耕鋤區
三寸乃至五寸耕鋤區收量多キヲ認ム	一七〇	一七〇	一六八	一六五	一六三	一七〇	一七〇	一六八	一六六	一六四	一七〇	一七〇	一六八	一六六	一六四
深耕セル程收量多キヲ認ム	一五三	一五三	一五三	一五三	一五三	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六
耕鋤ノ深淺ガ收量ニ及ボス影響少シ、四寸ヲ適當ト認ム	一五三	一五三	一五三	一五三	一五三	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六	一八六

三、耕鋤期對耕鋤深淺試驗（北海道）

1. 目的 耕鋤期並其ノ深淺ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントス

トス

口、供試品種 大谷地一辨
ハ、成績

試驗區名	自昭和四年三月		至昭和四年三月		無肥料區	結論
	過燐酸石灰七貫匁施用區	過燐酸石灰七貫匁施用區	過燐酸石灰七貫匁施用區	過燐酸石灰七貫匁施用區		
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	試驗繼續中ニ屬スルモ過燐酸石灰施用區ニアリテハ春秋二回深耕セルモノ收量最多ク深耕スルヲ有利トシ無肥料區ニアリテハ淺ク一回春耕セルモノ收量最多ク秋耕スルノ不利ナルヲ認ム
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	
無秋耕 春耕二十四穗區	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	

四、耕鋤深淺對肥料用量試驗 (福島縣)

イ、目的 耕鋤ノ深淺ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 ロ、供試品種 達磨
 ハ、成績 (自大正八年七月平均收量)

結 論	耕鋤ノ深			普通肥料五割減區	普通肥料區	全上五割増區	同上倍量區
	七寸耕區	五寸耕區	三寸耕區				
單十ル深耕及多肥ハ増收歩合少キモ深耕ト多肥トガ相伴フ時ハ收量著シク増加ス	〇・九七二	〇・九四三	〇・九四四	一・一〇一	一・一〇二	一・一〇一	一・一〇二
	一・一〇四	一・一〇七	一・一〇八	一・一〇六	一・一〇八	一・一〇六	一・一〇八
	一・一〇六	一・一〇八	一・一〇九	一・一〇七	一・一〇九	一・一〇七	一・一〇九

(備考) 普通肥料區ノ及當施肥量ハ木灰六貫過磷酸石灰一貫五〇。
 又トス

五、高畦平畦比較試驗 (北海道松山試作場)

イ、目的 平畦ト高畦トノ得失ヲ知ラムトス
 ロ、成績

試驗區名	赤	黒	結 論
高畦區	一・三三七	一・四六六	平畦栽培ノ有利ナルヲ認め
平畦區	一・五一一	一・七七五	
	自大正三年二月平均收量	自大正五年二月平均收量	

六、陸稻混植ト早害トノ關係試驗（埼玉縣）

イ、目的 陸稻ト大豆ノ混植ガ大豆及陸稻ノ早害ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

ロ、供試品種 鬼裸埼一辨

ハ、成績

試驗區名	大豆收量		陸稻收量		結論
	自大正十一年	三年平均	陸稻收量	平均	
陸稻一畦、大豆一畦混植區	一、三、四、〇	(2) 一、八、二、〇			年ニ依リ早害ノ程度ヲ異ニスルヲ以テ直ニ結論ヲ附シ難シ
陸稻二畦、大豆二畦混植區	一、五、一、三	(2) 一、七、一、一			
陸稻二畦、大豆一畦混植區	一、四、六、七	(2) 一、二、八、一			
陸稻一畦、大豆二畦混植區	(2) 一、七、九、六				
大豆單植區	一、三、八、六	(2) 一、八、五、八			
陸稻單植區					

七、間引試驗（福島縣）

イ、目的 密播ヲ十シ開花頃間引キテ之ヲ綠肥トナスノ可否ヲ知ラムトス

ロ、供試品種 赤莖

ハ、成績

試驗區名	自明治三十八年	三年平均收量	結論
普通播區	一、五、一、二		間引區ノ收量少シ
密播間引區	一、三、九、三		

八、培土試驗（北海道）

1. 目的 培土期が大豆ノ收量品質ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 2. 供試品種 赤英
 3. 成績

試驗區名	自明治三十七年四十一 年五ヶ年平均收量	結
不培土區	一石三二	培土ノ必要ナキヲ認ム
開花期前培土區	一石三二	
開花期培土區	一石三五	

論

九、摘葉試驗（岩手宮城、福島縣）

1. 目的 摘葉セル當初ニ於ケル摘葉が大
 豆ノ收量品質ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 2. 成績

標準區	自明治三十五年三ヶ年平均收量	自明治三十九年四ヶ年平均收量	自明治三十四年五ヶ年平均收量
摘葉區	一石二五	一石六八	一石四五
標準區	一石三七	一石七八	一石五五

標準區ノ收量稍多シ

摘葉ハ害アリ

一〇、摘心試験ノ一（青森縣五戸分場）
 一、目的 大豆ノ摘心ガ其ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 口、供試品種 玉造
 八、成績

試 驗 區 名	自昭和三年至四年平均收量	結 論
七月中旬摘心區	一石四七二	試験継続中
八月上旬摘心區	一石四二六	



一、摘心試験ノ二（栃木縣）
 一、目的 摘心試験ノ一ニ同ジ
 口、供試品種 不明
 八、成績

試 驗 區 名	自明治三十九年至四十一年平均收量	結 論
無摘心區	〇石九八九	三ヶ年平均ニ於テハ無摘心區ノ收量稍多キモ三ヶ年内ニテハ摘心區ノ收量優ルヲ以テ摘心ハ相當効果アルモノト認メラル
開花前摘心區	〇石九七四	

一三、摘心試験ノ三（新潟縣）
 一、目的の摘心試験ノ一二同
 口、供試品種 晩生赤英
 八、成績

試驗區名	至明治三十九年四十二年平均收量	結論
無摘心區	一石七五〇	一、四乃至二回ノ摘心ハ幾分効果アルモ三四ノ摘心ハ抑ツテ收量ヲ減セリ
一回摘心區	一石九〇〇	
二回摘心區	二石一〇〇	
三回摘心區	二石〇三六	

一三、枝ノ疎密試験（長野縣）
 一、目的の枝條ノ疎密ト收量トノ關係ヲ知ラムトス
 口、成績（至明治四十四年三ヶ年平均收量）

結論	記載ナシ	枝條疎密	品種名	銀	白	糶	不入	ヨゴレ豆	国	富	小	白
		疎枝條區	一石七二二	一石五一六	一石四六八	一石七七〇	〇石四六五					
		密枝條區	二石〇三七	一石七三三	一石八九一	一石九九五	〇石五六〇					

一四、耕種法試驗（茨城縣）

- イ、目的 在來法ト改良法トヲ比較セントス
 口、供試品種 赤莢
 八、成績

試驗區名	自明治三十四年三十五年二ヶ年平均收量	結論
在來法（畦幅一尺六寸條播及廿八并播、無肥料）區	一石〇七九	改良法ハ在來法ニ比シ增收ヲ示セリ
改良法（畦幅二尺、真踏及廿三并播、堆肥（〇）區、實蒙灰五貫、過燐酸石灰七貫施用）區	一石三四九	

一五、熟期促進試驗（岩手縣）

- イ、目的 熟期促進ノ適當ナル方法ヲ知ラムトス
 口、供試品種 白玉
 八、成績

試驗區名	自明治三十五年三ヶ年平均	結論
普通播（六月六日播種）區	〇石九一二	各區共熟期促進ノ效ナシ
最早播（五月十日播種）區	〇石八〇四	
早播（五月二十日播種）區	一石〇〇六	
厚播（及廿四并條播）區	一石〇〇三	
葉、黃色トナリタル当初二摘葉區	一石〇二八	
過燐酸石灰一〇貫加用區	〇石九七六	

一六、收穫期試驗 (秋田、新潟、宮崎縣)

1. 目的 適當ナル收穫期ヲ驗知セムトス
 口. 成績

結 論	早 中 晚		
	刈 區	刈 區	刈 區
平均收穫ニ於テ中刈區稍優ルモ各區 收穫ノ差僅少ナルノミナラズ生育 ノ狀況ニ鑑ミルトキハ收穫期ノ早 晩ハ收穫ニ大ナル影響ナキカ如シ 傾向ナシ	一石 九 六 九	一石 四 五 三	一石 〇 二 二
	一石 八 六 五	一石 五 一 七	一石 〇 〇 三
	一石 九 七 九	一石 六 三 七	一石 〇 四 五

(備考) 各縣ニ於ケル各區ノ刈取期左ノ如シ

縣 名	早 刈 區	中 刈 區	晚 刈 區
秋 田 縣	半分落葉セル時	全部落葉セル時	莢ノ裂開セル時
新 潟 縣	葉ノ綠色ヲ脱セザル時	葉ノ黃色トナリタル時	葉ノ脱落シタル時
宮 崎 縣	上部ノ莢多少綠色ヲ帯アル時	莢ノ黃色ヲ呈セル時	莢ノ褐色ニ変ジタル時

第五 前作 輪作 連作 間作等ニ關スル試驗

一、前作關係試驗ノ一 (埼玉縣)

目的 大麥ノ畦幅、播幅、廣狹及肥料用量ガ後作タル大豆ノ生

育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

口. 供試品種 毛裸

ハ. 成績 (自明治四十年四月平均大豆收量)

結 論	前作畦幅及肥料用量		播幅三寸跡區	全四寸跡區	全五寸跡區	全六寸跡區	全七寸跡區	全八寸跡區
	前作、播幅	前作、肥料						
二尺畦普通肥料跡區 二尺二寸畦普通肥料五割増跡區 二尺四寸畦普通肥料倍量跡區 二尺六寸畦普通肥料倍量跡區 二尺畦普通肥料跡區及二尺二寸畦普通肥料五割増跡區收量多ク前作物ノ播幅ノ廣狹ハ收量ニ及ボス影 響少ナキカ如シ	一石	一〇六二	一石	一〇〇二	一石	一〇一五	一石	一〇六〇
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三
	一石	一〇〇七	一石	一〇〇〇	一石	一〇〇八	一石	一〇九三

(備考) 前作普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥三〇〇貫、過燐酸石灰六貫、葉灰一五貫又トス

二、前作關係試驗ノ二（埼玉縣）

イ、目的 大麥ニ對スル土入回数及肥料用量ガ後作タル大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

ロ、供試品種 毛裸

ハ、成績（自明治四十二年三ヶ年平均大豆收量）

前作ノ肥料用量	前作ノ土入回数		
	不土入跡區	土入二回跡區	土入三回跡區
普通肥料五割減跡區	〇.八八一	〇.石八八六二	〇.石八八六
普通肥料料跡區	〇.九〇三	〇.石八八五二	〇.石八八五九
普通肥料五割増跡區	〇.八八一	〇.石八八五二	〇.石八八五九
普通肥料倍量跡區	〇.七六二	〇.石八八五二	〇.石八八五九

（備考）前作普通肥料區ノ反當施肥量ハ前作關係試驗ノ一二同ジ

三、前作關係試驗ノ三（埼玉縣）

イ、目的 大麥ノ畦幅ノ廣狹並肥料用量ガ後作タル大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

ロ、供試品種 毛裸

ハ、成績（自明治四十一年二ヶ年平均大豆收量）

前作ノ肥料用量	前作ノ畦幅			
	一尺八寸畦跡區	二尺畦跡區	一尺二寸畦跡區	二尺四寸畦跡區
普通肥料跡區	一石〇三七	一石〇一二	一石〇二七	一石〇九二二
普通肥料二割五分増跡區	〇.八五六	〇.九三九	〇.九五八	〇.八三九
普通肥料五割増跡區	〇.九八〇	一.〇一六	一.〇〇二	〇.四二九

（備考）前作普通肥料區ノ反當施肥量ハ前作關係試驗ノ一二同ジ

四、前作関係試験ノ四（埼玉縣）

1. 目的 麥ノ栽培法ガ後作タル大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ

知ラムトス

口 供試品種 鬼稜崎一辨

ハ 成績 (自昭和十四年四年平均大豆收量)

試験區名	小麥跡區	大豆跡區	結 論
標準跡區	一石六三四	一石五七七	試験継続中ニ屬スル小麥跡ヨリ大豆收量多ク且小麥跡及大豆跡共少肥狭畦區最モ増收シ管理粗放多肥區之ニ次ギ在末法區最モ劣ル
多肥廣畦跡區	一石三六九	一石七二二	
少肥狭畦跡區	一石七八四	一石八七六	
管理集約少肥跡區	一石六四一	一石七二四	
管理粗放多肥跡區	一石七四〇	一石八二〇	
在末法跡區	一石六二二	一石五三三	

(備考) 前作タル小麥ノ各區ノ耕種概要ハ別冊「道府縣農事試験場

ニ於ケル小麥ニ関スル試験成績概要ノ「第八ノ一畑麥栽培

培法試験」ノ項ヲ参照ノコト尚大豆ノ各區ノ耕種概要ハ何

レモ小麥ニ全ジ

五、前作関係試験ノ五（福島縣 東京府）

1. 目的 前作物ノ種類ガ後作タル大豆ノ生育收量ニ及ボス影響

ヲ知ラムトス

口 成績

結 論	福 島 縣				東 京 府			
	休 閑 跡 區	大 麥 跡 區	小 麥 跡 區	裸 麥 跡 區	休 閑 跡 區	大 麥 跡 區	小 麥 跡 區	裸 麥 跡 區
休閑跡區成績不良ナリ、裸麥又ハ大豆ト輪作スルヲ可トス	一石〇	一石五	一石五	一石八	一石四	一石七	一石三	一石六
大豆跡區優ル	一石四	一石四	一石三	一石六	一石八	一石五	一石三	一石四

自明治三十二年四年平均收量

自大正四年三年平均收量

六 間作試験 (北海道)

1. 目的 裸麥ニ對シ間作ヲ行フ得失ヲ知ラムトス
 口 供試品種 大谷地
 ハ 成績

試験區名	自明治三十七年七月平均		結 論
	裸麥收量	大豆收量	
標麥單作 一尺五寸畦區 二尺畦區	一石三・八二 一石二・三三	一石二・三三 一石一・三七	大豆ノ間作ヲ行フモ標麥ノ收量ニ影響セズ尙畦幅二尺區ニ比シ一尺五寸區ノ有利ナルヲ認ム
大豆間作 一尺五寸畦區 二尺畦區	一石二・二七 一石一・一七	一石一・三七 一石一・一七	

第六 肥料ニ関スル試験

一 施肥期試験 (宮崎縣)

1. 目的 麥ノ間作トシテ栽培スル場合ニ於ケル施肥ノ適期ヲ知ラムトス
 口 供試品種 ネリタリ
 ハ 成績

試験區名	自明治三十九年三月平均收量	結 論
大豆播種ノ際 (五月五日) 施肥區 麥刈後 (六月六日) 施肥區	一石一・〇五 一石〇・五八	播種ノ際施肥シタルモノ收量稍々多キモノト如シ

二、要素試験ノ一（北海道）
1. 目的 肥料要素ノ大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムト

口 供試品種 檢山試作場ハ黑莢在来 其ノ他ハ大谷地
ハ 成績

結論	肥料區				備考
	無空素區	無磷酸區	無加里區	三要素區	
試驗繼續中ニ屬スルモ磷酸及空素ノ肥効大ナルヲ認ム	一、五〇四	一、六四三	一、六一五	一、七九八	十勝支場 自大正十一年至昭和四年 六年平均收量
試驗繼續中ニ屬スルモ磷酸ノ肥効大ナルヲ認ム	一、二五四	一、五四〇	一、二七六	一、五三〇	北見支場 昭和四年收量
磷酸ノ肥効大ナルヲ認ム	一、九七七	二、一八八	一、八二二	二、三三四	渡島支場 自大正十年至昭和十二年 三年平均收量
磷酸及加里ノ肥効大ナルヲ認ム	一、六〇六	三、四四五	一、五一一	三、九二二	早來火山灰地 自大正四年至昭和十年 七年平均收量
磷酸ノ肥効大ナルヲ認ム	〇、六〇三	一、〇二四	〇、四九八	〇、九八〇	十勝支場 高丘地試驗地 自大正三年至昭和九年 七年平均收量
磷酸及空素ノ肥効大ナルヲ認ム	一、二四二	一、四六一	一、四二八	一、七三九	頼棚試作場 自大正十四年至昭和二年 三年平均收量
磷酸及加里ノ肥効大ナルヲ認ム	一、四三五	一、五五一	一、四五三	一、四六四	檢山試作場 自大正十一年至昭和元年 五年平均收量

備考	肥料區			
	無空素區	無磷酸區	無加里區	三要素區
反当要素量ハ空素及磷酸各二貫又加里一貫五〇又トシ各區共炭酸石灰一〇貫又施用セリ	反当要素量ハ空素及磷酸各二貫又加里一貫五〇又トシ各區共炭酸石灰一〇貫又施用セリ	反当要素量ハ空素一貫又磷酸二貫又加里一貫五〇又トス	反当要素量ハ空素及磷酸各二貫又加里一貫五〇又トシ各區共炭酸石灰二貫又トス	反当要素量ハ空素及磷酸各二貫又加里一貫五〇又トシ各區共炭酸石灰二貫又トス
同	同	同	同	同
反当要素量ハ空素、磷酸、加里素、磷酸、加里各二貫又トシ各區共炭酸石灰二貫又トス	反当要素量ハ空素、磷酸、加里素、磷酸、加里各二貫又トス	反当要素量ハ空素、磷酸、加里素、磷酸、加里各二貫又トス	反当要素量ハ空素、磷酸、加里素、磷酸、加里各二貫又トス	反当要素量ハ空素、磷酸、加里素、磷酸、加里各二貫又トス
施用セリ	施用セリ	施用セリ	施用セリ	施用セリ

三、要素試験ノ二（北海道）

イ、目的 肥料要素試験ノ一二同シ
 ロ、供試品種 根室支場ハ霜不知其ノ他ハ大谷地
 ハ、成績

備考	結論	無肥料區	無空素區	無燐酸區	無加里區	三要素區
自明治十四年 至大正十一年 平均收穫量	根知安試作場	〇.八一五	〇.九三八	〇.八三四	〇.八六八	〇.九四七
自大正十二年 至昭和二年 平均收穫量	日高試作場	〇.六三六	〇.九八四	〇.六三三	〇.八二五	〇.八四六
昭和四年收穫量	釧路試作場	〇.九一八	一.三四二	一.〇一七	一.〇一七	一.五二三
昭和四年收穫量	根室支場	〇.四四〇	一.二一〇	〇.四九五	一.五九五	一.九二五
自大正十一年 至十四年 平均收穫量	天塩試作場	一.四四四	一.四九五	一.二五五	一.五一三	一.五六三
自大正十一年 至昭和二年 平均收穫量	天塩泥炭地試作場	〇.六〇七	一.三四三	〇.七七九	一.〇二三	一.二九一

四、要素試験ノ三（北海道琴似泥炭地試験地）

イ、目的 肥料要素試験ノ一二同シ
 ロ、供試品種 白小粒又ハ大谷地
 ハ、成績

試驗區名	自明治十四年 至大正十一年 平均收穫量	自明治十四年 至大正十四年 平均收穫量	自明治十四年 至昭和四年 平均收穫量	結論
無肥料區	四	三	五	石灰無施用区ニアリテハ燐酸 及加里ノ肥効大ニシテ石灰施 用区ニアリテハ燐酸及空素ノ 肥効大ナリ
無空素區	八	五	三	
無燐酸區	四	四	三	
無加里區	七	六	九	
三要素區	七	五	六	
三要素區	七	六	四	

（備考）大正四年迄ノ反當要素量ハ空素及燐酸各二貫五〇。又、加里二貫又トシ大正五年以降ハ空素、燐酸、加里各二貫又トス各區共石灰二〇貫又施用

五、要素試験ノ四（青森、岩手、群馬縣）

1、目的的肥料要素試験ノ一二同ジ
口、成績

肥料	青森縣		岩手縣		群馬縣	
	野起	白土	玉壤	開墾地	馬	裸
無肥料區	〇・八	〇・一	〇・一	三・九	四・二	四・五
無窒素區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
無燐酸區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
無加里區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
無石灰區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
無空素區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
空素單用區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
燐酸單用區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
加里單用區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
石灰單用區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
無空素石灰加用區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五
三要素(空素燐酸加里)區	〇・一	〇・一	〇・一	二・九	四・二	四・五

備考	結論	四要素(空素燐酸加里石灰)區
及当要素量ハ空素一貫及燐酸加里各二貫五〇又トス	加里ハ稍々其ノ効果ヲ顯ハセルモ燐酸並ニ空素ハ其ノ効果ヲ認メ難シ	〇・九七 〇・七〇
三要素區ノ及当施肥量ハ硫酸アンモニア一〇貫燐酸加里八貫及石灰一〇貫炭酸加里八貫又トシ無空素區無燐酸區無加里區等之ニ準ズ	結論ヲ下シ難シ	〇・一 〇・二
	供用原野土壤ハ著シク燐酸ニ缺乏セルコトヲ示セリ	二 一・三 八
	石灰及加里ノ施用種ノテ必要ニシテ燐酸之ニ次ギテ必要ナリ	五 〇

六、三要素適量試驗（群馬・沖繩縣）
 1. 目的 肥料三要素ノ適量ヲ知ラントス
 口 成績

肥料	標準	群馬縣		沖繩縣	
		自大正九年 至十三年	五年平均	自昭和四年 至三年	二年平均
標肥	無窒素	六	一	一	一
無窒素	無	六	六	一	一
無	空	六	二	一	一
空	空	六	二	一	一
空	空	六	二	一	一
空	空	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一
無	無	六	二	一	一

結果	加里三〇〇	加里二〇〇	加里一〇〇	加里五〇〇	無加里	磷酸三〇〇	磷酸二〇〇	磷酸一〇〇	磷酸五〇〇	無磷酸
論	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
試驗繼續中	二	一	一	一	〇	二	五	二	九	七
試驗繼續中	七	七	二	四	四	七	七	二	四	四

（備考）沖繩縣ニ於ケル標準區ノ反當施用要素量ハ窒素磷酸加里各一貫二五〇又トス

窒素ハ收量增加ニ対スル効果少ク加里ハ三貫又磷酸ハ二貫又内外ヲ適當ト認ム

七、窒素適量試験（北海道青森縣）

1. 目的 窒素ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス

結 論	無窒素區				窒素五〇〇〇及區				窒素六六〇〇及區				窒素一〇〇〇及區				窒素一三二〇及區				窒素一五〇〇及區				窒素二〇〇〇及區			
	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量	昭和大正 和谷地 四年一 收量						
試驗繼續中ニ屬スルモ窒素一貫及ヲ適量ト認ム	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇						
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一						
窒素ノ効果ニ付テハ一定ノ傾向ヲ認メ難シ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一						
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一						

（備考）北海道ニ於テハ各區共磷酸、加里各一貫五〇〇及ヲ施用

八、磷酸適量試験（北海道青森、新潟縣）

1. 目的 磷酸ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス

結 論	無磷酸區				磷酸一貫及區				磷酸二貫及區				磷酸三貫及區				磷酸四貫及區					
	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量	自昭和大正 四年一 平均收量
試驗繼續中ニ屬スルモ磷酸三貫區ニ至テハ增收少キヲ以テ磷酸一貫乃至二貫區最モ收量多シ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
磷酸ノ効果著シカラザルモ幾分ノ効果アリト認ム	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

（備考）北海道ニ於ケル及當要素量ハ窒素二貫及加里一貫五〇〇及トシ新潟縣ニ於テハ共通肥料トシテ及當人尿三。貫葉灰三。貫及ヲ施用セリ

九、磷酸加里及石灰適量試驗（岩手、山形、神奈川縣）
 1. 目的 磷酸加里及石灰ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口 成績

無 肥 料 區	無 磷 酸 區	岩手縣		山形縣		神奈川縣	
		自 大 正 九 年 至 十 一 年 平 均 收 量	自 大 正 八 年 至 十 一 年 平 均 收 量	自 大 正 八 年 至 十 一 年 平 均 收 量	自 大 正 三 年 至 十 一 年 平 均 收 量		
〇・石	〇・石	〇・九	〇・八	一・石	〇・八	〇・石	〇・石
〇・六	〇・五	一・二	一・三	一・石	〇・三	〇・六	〇・七
〇・六	〇・六	二・四	二・五	一・石	〇・三	〇・七	〇・七
〇・一	〇・二	三・八	四・一	一・石	〇・六	〇・八	〇・四
〇・九	〇・九	四・三	四・七	一・石	〇・二	〇・七	〇・四
〇・九	〇・九	五・六	五・九	一・石	〇・三	〇・八	〇・四
一・〇	一・〇	六・三	六・四	一・石	〇・四	〇・八	〇・五
一・五	一・五	七・九	八・二	一・石	〇・五	〇・九	〇・五
二・〇	二・〇	八・三	八・五	一・石	〇・六	一・〇	〇・五
二・五	二・五	九・二	九・三	一・石	〇・七	一・一	〇・五
三・〇	三・〇	一〇・〇	一〇・三	一・石	〇・七	一・二	〇・五
三・五	三・五	一〇・九	一一・一	一・石	〇・七	一・三	〇・五
四・〇	四・〇	一一・六	一二・〇	一・石	〇・七	一・四	〇・五
四・五	四・五	一二・二	一二・七	一・石	〇・七	一・五	〇・五
五・〇	五・〇	一二・八	一三・三	一・石	〇・七	一・六	〇・五

結 論	加里五〇〇又區		加里一〇〇〇又區		加里二〇〇〇又區		加里三〇〇〇又區		加里四〇〇〇又區		加里五〇〇〇又區	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
磷酸及加里ハ各三貫又石灰ハ四〇貫又ヲ施用セルモノ收量最多シ	(2)	一	一	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	〇	〇
		〇	〇	九	八	六	六	六	六	八	九	七
當場ノ土壤ニ於テハ磷酸ノ効果ルガ如シ加里ノ效果ハ極メテ少ナク石灰ハ多少ノ效果アリ		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
		四	三	六	二	〇	九	三	三	六	八	三
磷酸及加里ノ施用ハ必要ナリト認ム		四	一	一	七	七	六	六	八	三	三	〇
		八	〇	八	三	三	三	三	三	三	三	〇

一〇、加里通量試驗（北海道青森縣）

一、目的 加里ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口、成績

結 論	無加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里	加里
	八〇〇	一〇〇	一三三	一八六	二〇〇	二四〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
試驗地	北海	北海	北海	北海	北海	北海	北海	北海	北海
	谷地	谷地	谷地	谷地	谷地	谷地	谷地	谷地	谷地
試驗年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
試驗地	野青	野青	野青	野青	野青	野青	野青	野青	野青
	起森	起森	起森	起森	起森	起森	起森	起森	起森
試驗年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
試驗地	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫
	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良
試驗年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
試驗地	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫
	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良	最良

（備考）北海道ニ於テハ各區共反當窒素一貫燐酸二貫又ヲ施用

一、窒素質肥料用量試驗ノ一（北海道美唄泥炭地試驗地）

一、目的 高位泥炭地ニ於テ過燐酸石灰及硫酸加里ヲ基肥トセル
 場合窒素質肥料補給ノ適量ヲ知ラムトス
 口、供試品種 中生稈
 八、成績

試驗區名	無窒素區	智利硝石一〇〇〇	〃	〃	〃	硫酸アンモニア七五〇	〃	〃
昭和四年收量	〇石	六四〇	六二七	七六四	七四八	六二一	六九三	七三五
試驗地	北海	北海	北海	北海	北海	北海	北海	北海
試驗年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年
試驗地	野青	野青	野青	野青	野青	野青	野青	野青
試驗年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年
試驗地	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫
試驗年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年	昭和四年
試驗地	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫	三貫

（備考）各區共過燐酸石灰八貫又硫酸加里二貫又ヲ施用

一四、人尿施用試驗（山形縣）
 1. 目的 人尿ノ施用カ收量ニ及ホス影響ヲ驗知セムト人
 口 供試品種 鶴ノ友
 八 成績

試驗區名	自明治三十八年四十年平均收量	結
普通肥料區	二石六八〇	人尿施用區考ル
人尿四〇貫又區	二石五二八	
〃 一〇〇貫又區	二石三九九	論

（備考）普通肥料區ノ及當施肥量ハ過磷酸石灰五貫葉灰二五貫又ト
 又

一五、過磷酸石灰用量試驗ノ一（北海道）
 1. 目的 過磷酸石灰ノ適當ナル施用量ヲ知ラムト又
 口 供試品種 本場及松山試作場ハ赤英、其ノ他ハ大谷地
 八 成績

結論	過磷酸石灰及無施用區	本場 自明治四十一年 至四十二年 平均收量	十勝支場 自大正二年 至四年 平均收量	北見 自大正五年 至七年 平均收量	支場 自大正六年 至八年 平均收量	渡島支場 自明治四十四年 至大正六年 平均收量	早來大谷地試驗地 自大正十年 至十三年 平均收量	松山試作場 自大正六年 至十年 平均收量
	過磷酸石灰二貫又區	一〇九〇	一三二八	一〇七三	一五六七	一六五〇	一二五六	一五六七
	三貫又區	一〇五七	一四〇九	一〇七三	一六三三	一七一	一三五一	一五五八
	四貫又區	一一二四	一五八一	一一一四	一七二二	一七四七	一三四一	一六二一
	五貫又區	一一九三	一六〇四	一一三八	一七三八	一七六〇	一三六四	一五七一
	六貫又區	一二八一	一五二二	一一三〇	一七一一〇	一八三〇	一三八三	一四五五
	七貫又區			一一三〇				
	八貫又區			一一三〇				
	九貫又區			一一三〇				
	一〇貫又區			一一三〇				
	一二貫又區			一一三〇				
九貫又内外ヲ通 量ト認ム								
八貫又内外ヲ通 量ト認ム	(2)							
七貫又内外ヲ通量ト認ム								
施用多キ程收 量多キモ六貫又 乃至九貫又ヲ適 量ト認ム								
同								
六貫又内外ヲ通 量ト認ム								

一六、過燐酸石灰用量試驗ノ二（北海道）

1. 目的 厩肥ヲ加用セル場合ニ於ケル過燐酸石灰ノ適當ナル施
 用量ヲ知ラムトス
 口 供試品種 本場ハ赤莢、其ノ他ハ大谷地
 八、成績

過燐酸石灰無施用區	過燐酸石灰二貫匁區	三貫匁區	四貫匁區	六貫匁區	八貫匁區	九貫匁區	一二貫匁區	一五貫匁區
本場 自昭和三十八年 至昭和四十年 三年平均收量	一石五七四	一石六七〇	一石六五七	一石六五七	一石七六九	一石六七一	一石六七一	一石六七一
十勝支場 自大正五年 至昭和八年 四年平均收量	一石七二〇	一石七八二	一石八〇九	一石八六一	一石八八六	一石八八六	一石八八六	一石八八六
十勝支場高丘地試驗地 自昭和二年 至昭和四年 三年平均收量	一石四四九	一石六一五	一石六四四	一石六八五	一石七一五	一石七〇二	一石七〇二	一石七〇二
早來火山灰地試驗地 自大正十三年 至昭和三十年 八年平均收量	一石五五九	一石六九一	一石六七三	一石六三六	一石六七一	一石六七一	一石六七一	一石六七一
日高試作場 自大正十二年 至昭和元年 四年平均收量	〇石九四六	一石四五四	一石五八一	一石四九四	一石四九四	一石四〇六	一石四〇六	一石四〇六

結論	三貫匁乃至六貫匁ヲ 適量ト認ム	六貫匁内外ヲ適量ト 認ム	試驗繼續中ニ屬スル 多クモ九貫匁乃至一二 貫匁ヲ適量ト認ム	三貫匁乃至六貫匁ヲ 適量ト認ム	六貫匁ヲ適量ト認ム
----	--------------------	-----------------	-------------------------------------	--------------------	-----------

（備考）共通肥料トシテ各區ニ施用セル及當厩肥量ハ本場及日高試
 作地三〇〇貫匁十勝支場及同高丘地試驗地二〇〇貫匁、早來火
 山灰地試驗地一五〇貫匁トス

一七、過磷酸石灰用量試驗ノ三 (鹿兒島縣)

1. 目的 過磷酸石灰用量試驗ノ一ニ同ジ
 口 供試品種 生娘
 八 成績

試驗區名	自明治四十二年五月至四十五年三月平均收量	結 論
過磷酸石灰無施用區	一石二四一	當場畑地ニ於テハ過磷酸石灰ノ效果甚ク少シ
過磷酸石灰三貫又區	一石二六二	
六貫又區	一石三二二	
九貫又區	一石三六四	
一二貫又區	一石三六〇	

一八、過磷酸石灰及石灰用量試驗 (新潟縣)

1. 目的 過磷酸石灰及石灰ノ施用量ト收量トノ關係ヲ知ラムト

口 供試品種 早生水澁
 八 成績

試驗區名	自明治四十四年五月至四十五年三月平均收量	結 論
石灰一〇貫又加用區	一石三九六	概シテ石灰施用量ヲ增加スルニ從ヒ收量ヲ増スモ過磷酸石灰及石灰併用區ニ於テハ各區ノ收量ニ一定ノ傾向ヲ認メ難シ
二〇貫又加用區	一石三六六	
三〇貫又加用區	一石三五五	
四〇貫又加用區	一石三六八	
五〇貫又加用區	一石三六七	
石灰一〇貫過磷酸石灰三貫又加用區	一石三六六	
石灰二〇貫過磷酸石灰四貫又加用區	一石三五七	
石灰三〇貫過磷酸石灰五貫又加用區	一石三七一	
石灰四〇貫過磷酸石灰六貫又加用區	一石三五三	
石灰五〇貫過磷酸石灰七貫又加用區	一石三四四	

(備考) 各區共人尿三。貫葉灰二五貫又ヲ施用セリ

一九、骨粉用量試験（三重縣）

イ、目的 骨粉ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 在來種
 ハ、成績

試驗區名	自大正四年 至五年 平均收量	結
骨粉無施用區	一〇三	施用量ヲ増スニ從ヒ收量ヲ増加スルノ傾向アリ
骨粉三〇〇加用區	一〇一	
骨粉四〇〇加用區	一〇五	
骨粉六〇〇加用區	一〇八	
骨粉七〇〇加用區	一〇三	
骨粉九〇〇加用區	一〇三	

二〇、藁灰用量試験（茨城縣）

イ、目的 藁灰ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 生娘
 ハ、成績

試驗區名	自大正二年 至六年 平均收量	結
藁灰五〇〇加用區	一〇一	施用量ヲ増加スルニ從ヒ收量亦増加スルモ一〇貫及以上ノ各區間ノ收量ニ大差ナシ
藁灰七五〇加用區	一〇四	
藁灰一〇〇〇加用區	一〇〇	
藁灰一二五〇加用區	一〇二	
藁灰一五〇〇加用區	一〇八	

二、石灰用量試験（岩手、秋田、福島、茨城、栃木縣）
 1. 目的の石灰、適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口、成績

結 論	記 載	無 石 灰 區	石灰五貫匁加用區	一〇貫匁加用區	一五貫匁加用區	二〇貫匁加用區	三〇貫匁加用區	五〇貫匁加用區	八〇貫匁加用區
岩手縣 自明治三十五年 至三十七年 平均收量	一石二八〇	一石二八〇	一石二六〇	一石二六〇	一石二六〇	一石二六〇	一石二六〇	一石二六〇	一石二六〇
秋田縣 自大正九年 至十二年 平均收量	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇	一石二九〇
福島縣 自明治三十二年 至三十五年 平均收量	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七	一石六五七
茨城縣 自大正六年 至十二年 平均收量	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二	〇石九九二
栃木縣 自明治四十四年 至四十六年 平均收量	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二	〇石八五二

備 考
各区共通燐酸石灰五貫匁ヲ施用セリ
各区共通燐酸石灰四貫匁、木灰二五貫匁ヲ施用セリ
各区共通堆肥一〇〇貫匁、硫酸アミニ一貫匁、硫酸石灰五貫匁、硫酸燐酸石灰五貫匁、硫酸燐酸石灰五貫匁ヲ施用セリ
各区共通場普通肥料ヲ施用セリ

二二、石灰加用試験（埼玉縣）

1. 目的 施肥量ヲ異ニセル場合ニ於ケル石灰ノ加用ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

口 供試品種 毛裸
八 成績（自大正七年三ヶ年平均收量）

施肥量	石灰加用量		石灰三〇貫加用區
	石灰加用區	石灰無加用區	
無肥	一石	三	一石 四
普通肥	一	三	一 四
普通肥料二割五分増區	一	六	一 四
普通肥料五割増區	一	六	一 二
普通肥料	一	六	一 三
普通肥料二割五分増區	一	六	一 四
普通肥料五割増區	一	六	一 二

（備考）普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥六〇貫 過燐酸石灰四貫五〇〇 又 葉灰一五貫又トス

無肥料區及普通肥料區ニ於テハ石灰ノ加用ニヨリ增收セルモ普通肥料二割五分増區及普通肥料五割増區ハ却テ增收ヲ来セリ

二三、石灰効力試験（埼玉縣）

1. 目的 石灰ノ施用ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
口 供試品種 毛裸
八 成績（自大正四年三ヶ年平均收量）

石灰施用量	施肥量		反當堆肥三〇ノ、過燐酸石灰四ノ五〇〇 又 葉灰一五ノ反施用區
	無肥區	肥料區	
無石灰	一石	三	一石 三
石灰一〇貫	一	六	一 三
石灰三〇貫	一	六	一 三
石灰五〇貫	一	六	一 三

無肥料區ニ於テハ石灰ノ施用多キニ從ヒ順次收量増加セルモ施肥肥料區ニ於テハ之ニ反スルノ傾向アリ

二四、肥料用量試驗ノ一(岩手、福島、茨城、埼玉縣)

1. 目的 適當ナル施肥用量ヲ知ラムトス

口 成績

結 論	無 肥 料 區				岩 手 縣		福 島 縣		茨 城 縣		埼 玉 縣	
	普通肥料五割減區	普通肥料二割五分減區	普通肥料二割五分減區	普通肥料二割五分減區	自明治三十五年 至三十七年 平均收穫量	自明治三十四年 至三十七年 平均收穫量	自明治三十四年 至三十七年 平均收穫量	自明治三十四年 至三十七年 平均收穫量	自明治三十四年 至三十七年 平均收穫量	自明治三十八年 至四十一年 平均收穫量	自明治三十八年 至四十一年 平均收穫量	自明治三十八年 至四十一年 平均收穫量
記載ナシ	〇石 六〇〇	一、六 〇〇	一、五 五三	一、五 七五	一、三 四〇	一、七 八二	一、七 八二	一、七 八二	一、七 八二	一、七 八二	一、七 八二	一、七 八二
木灰及過燐酸石灰ハ 事情ノ許ス限リ多用 スルヲ可ト認ム	(3) 一、九 一九	一、七 六九	一、七 八五	一、七 六九	一、九 一九	一、七 六九	一、七 六九	一、七 六九	一、七 六九	一、七 六九	一、七 六九	一、七 六九
普通肥料區程度ノ施 肥量ヲ適當ト認ム	一石 四八六	一、四 六八	一、五 〇九	一、五 二九	一、五 三三	一、五 二九	一、五 二九	一、五 二九	一、五 二九	一、五 二九	一、五 二九	一、五 二九
施肥量ノ增加ニ伴ヒ 收穫亦増加スルモ其 ノ增收割合ハ僅少ニ シテ經濟的ニ有利ナ ラズ	(3) 〇石 八七〇	〇、九 八五	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一	〇、九 八一
普通肥料二割五分減 區ノ收穫量多ク普通 肥料區全ニ割五分 増區之ニ次ク	一石 一一一	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五	一、三 七五

備 考	普通肥料區ノ反当施 肥量ハ木灰二五貫過 燐酸石灰四貫又トス	同 上	普通肥料區ノ反当施 肥量ハ木灰五貫過燐 酸石灰六貫堆肥一〇 貫又トス	普通肥料區ノ反当施 肥量ハ堆肥一二〇貫 過燐酸石灰六貫葉 灰一五貫又トス
-----	-------------------------------------	-----	---	---

二五、肥料用量試験ノ二（高知、沖繩縣）
 1. 目的 肥料用量試験ノ一二同シ
 口、成績

備考	結論	高知縣			沖繩縣		
		高知縣	國頭郡	名護郡	阿比多摩	中頭郡	宜野灣村
無肥料	試驗結果中	自昭和三年至四年平均收量	自大正五年至七年平均收量	自大正十年至十二年平均收量	自大正十年至十二年平均收量	自昭和三年至四年平均收量	
標準肥料五割減區	一、五、六、九、二	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料三割減區	一、五、七、〇、二	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料一割減區	一、五、四、二	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料一割増區	一、五、四、二	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料三割増區	一、五、九、三	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料五割増區	一、九、九、一	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料十割増區	一、九、九、一	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	
標準肥料十五割増區	一、九、九、一	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇	

二六、厩肥肥効比較試驗（北海道）
 1. 目的 牛肥及馬肥ノ肥効ヲ比較セムトス
 口、供試品種 大谷地
 口、成績

試驗區名	自明治四十三年至大正三年平均收量	自明治四十三年至大正五年平均收量	結論
厩肥無施用區	〇、七、二、八	〇、七、二、八	牛肥及馬肥ノ肥効ニ大差ナシ
馬肥三〇貫區	一、一、二、二	一、一、二、二	
牛肥三〇貫區	一、一、二、二	一、一、二、二	

（備考）各區共反當過磷酸石灰五貫及ヲ施用セリ

二七、磷酸質肥料肥効比較試験（北海道、北見支場）

- イ、目的 磷酸質肥料ノ肥効ヲ比較セムトス
 ロ、供試品種 大谷地一辨
 ハ、成績

試験區名	自昭和四年三月至昭和四年五月		結
	連作區	輪作區	
無磷區	一石四二五	一石〇六〇	試験継続中ニ屬スルモ連作區ニアリテハ過磷酸石灰ノ肥効最モ優リ輪作區ニアリテハ過磷酸アルミナ區及米糠區ノ收量大ナルヲ認ム
過磷酸石灰區	一石五五二	一石二六〇	
磷加里區	一石三三八	一石二三六	
骨粉區	一石六一〇	一石一五八	
米糠區	一石二八四	一石〇五三	
磷酸アルミナ區	一石三九六	一石二六六	

（備考）一、反當施肥量ハ過磷酸石灰區一貫五三。及、磷酸加里區一貫五〇。及、骨粉區九貫。二。及、米糠區六貫一五。及、磷酸アルミナ區一七貫。九。及ニシテ各區共硫酸アンモニア一貫及施用セリ
 輪作區ハ甜菜、裸麥、大豆、順ニ作付セリ

二八、促肥素施用試験（新潟縣）

- イ、目的 促肥素施用ノ時期及用量ガ大豆ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 早生刈羽龍谷
 ハ、成績

試験區名	自大正十二年四月至昭和二年四月		結
	連作區	輪作區	
無施用區	一石二九三	一石〇七〇	成績區々ニシテ促肥素ノ効果ヲ認ムルコト能ハズ
促肥素九六。及	一石一七一	一石〇七〇	
元肥トシテ施用區	一石一七一	一石〇七〇	
六月下旬追肥トシテ施用區	一石一七一	一石〇七〇	
促肥素四〇。及	一石二九三	一石〇七〇	
元肥トシテ施用區	一石二九三	一石〇七〇	
六月下旬追肥トシテ施用區	一石二九三	一石〇七〇	

二九、溝掩加用試験（栃木縣）

- イ、目的 溝掩ノ加用ガ大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムト
 ロ、供試品種 在來種
 ハ、成績

試験區名	自明治四十四年 至大正元年 二十年平均收量	結論
標準區	一〇・三九	溝掩ノ施用ハ効果ナキモノト認めラル
溝掩三四分施區	〇・九六	
溝掩五四分施區	〇・八二	

（備考）溝掩分施區ハ塩化溝掩反當二貫ヲ百倍ニ稀釋シ生育旺盛期ニ分施セリ

三〇、肥料配合試験ノ一（茨城縣）

- イ、目的 適當ナル肥料ノ配合法ヲ知ラムトス
 ロ、供試品種 生娘
 ハ、成績

試験區名	自明治四十四年 至四十五年 四年平均收量	結論
一、堆肥一〇〇貫、過磷酸石灰五貫、苦茶灰五貫又區	〇・九〇	第四區最モ良好ナリ
二、堆肥一〇〇貫、木灰二五貫又區	一・〇〇	
三、堆肥一〇〇貫、硫酸加里六四〇又、過磷酸石灰五貫又區	〇・八九	
四、硫酸アンモニア二貫五〇又、硫酸加里六四〇又、過磷酸石灰八貫又區	一・〇〇	
五、堆肥一〇〇貫、石灰二〇貫又區	〇・九四	
六、過磷酸石灰五貫、硫酸アンモニア一貫、苦茶灰五貫又區	一・〇〇	
七、堆肥一〇〇貫、溶解グアノ五貫、苦茶灰五貫又區	〇・九五	

三、肥料配合試験ノ二（群馬縣）

1. 目的 肥料配合試験ノ一二同ジ
 口 供試品種 鬼裸
 八、成績

試 驗 區 名	自大正九年 至十三年 五年平均八十分ノ一反當收量	結 論
無 肥 料 區	三	磷酸肥料トシテハ過磷酸石灰 加里質肥料 トシテハ硫酸加里ヲ可トスルガ如ク肥料ノ配 合法トシテハ堆肥ノ少量ト過磷酸石灰硫酸加 里及少量ノ石灰ヲ配合スルヲ適當ト認ム
堆肥一〇〇貫、過磷酸石灰三貫、磷酸ア ンモニア二貫、木灰一五貫、石灰三〇貫及區	五	
過磷酸石灰七貫、木灰二〇貫、石灰五〇貫及區	五	
堆肥二五〇貫、過磷酸石灰七貫、骨粉五貫 木灰一五貫、石灰三〇貫及區	四	
骨粉五貫、木灰二〇貫、石灰二〇貫及區	三	

三、肥料配合試験ノ三（群馬縣）

1. 目的 肥料配合試験ノ一二同ジ
 口 供試品種 借金十シ
 八、成績

試 驗 區 名	自昭和二年 至四年 三年平均收量	結 論
無 肥 料 區	一七四	試驗継続中
堆肥一〇貫、骨粉五貫、木灰二〇貫及區	〇九七	
堆肥一〇貫、骨粉五貫、木灰二〇貫及區	〇九三	
硫酸加里五貫、過磷酸石灰七貫及區	一〇七	

三三、肥料配合試驗ノ四（埼玉縣）

1. 目的 肥料ノ単用又ハ併用ガ大豆ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
- 口 供試品種 毛裸
- ハ 成績

試驗區名	自明治三十九年 至四十二年 平均收量	結 論
無肥料區	〇石七	堆肥、過磷酸石灰及葦草灰ヲ併用スルモ其ノ効果顯著ナラズ、尙窒素肥料ヲ減ズルモ大豆ノ收量ニ影響ヲ及ボスコト歎キモノ、如シ
堆肥一〇貫又單用區	〇石八	
葦草灰九貫又單用區	〇石九	
〃一五貫又單用區	〇石八	
〃二一貫又單用區	〇石九	
過磷酸石灰六貫又單用區	〇石九	
〃九貫又單用區	〇石九	
過磷酸石灰六貫葦草灰一五貫又區	〇石九	
堆肥一〇貫過磷酸石灰六貫葦草灰一五貫又區	〇石九	
堆肥一〇貫葦草灰一五貫又區	〇石九	

三四、肥料配合試驗ノ五（三重縣）

1. 目的 肥料配合試驗ノ一二同シ
- 口 供試品種 在來種
- ハ 成績

試驗區名	自明治四十一年 至四十二年 平均收量	結 論
一、無肥料區	〇石六	第一區成績良好ナリ
二、堆肥一五貫葦草灰一二貫又區	〇石一	
三、堆肥一五貫過磷酸石灰六貫葦草灰九貫又區	〇石八	
四、堆肥一五貫石灰七一貫又區	〇石二	

三五、連作ニ對スル肥料試驗（群馬縣）

イ、目的 大豆連作ノ場合ニ於ケル適當ナル肥料ヲ驗知セムトス
 口、供試品種 鬼稗
 ハ、成績

試驗區名	自大正九年四月平均二分の一及當收量 至十二年	結 論
無 豫 防 區	一 五 克	豆類ヲ連作スル場合ニハ堆肥及石灰ヲ加用スルヲ有利トス就中 有機物ノ施用ハ連作ノ害ヲ防グ効多シ 石灰ハ有機質肥料ト併 用セル場合ニ三年間ハ効大ナルモ年數ノ經過ト共ニ低減ノ傾向 アリ、石灰窒素ハ嫌地病ニヨル場合ノ外効果少ナキガ如シ
有 機 質 區	二 七	
石 灰 窒 素 區	一 四	
石 灰 區	三 三	

（備考）無予防區ノ反當施肥量ハ下肥一荷、過磷酸石灰一〇貫、炭酸加里五貫トシ有機質區ハ前區ニ反當堆肥ニ五〇貫ヲ、石灰窒素區ハ石灰窒素一〇貫ヲ、石灰區ハ石灰五〇貫又ヲ各加用セルモノトス

第七、病蟲害ニ関スル試驗

一、葉卷虫駆除試驗（群馬縣）

イ、目的 有効ニシテ葉害ナキ駆除劑ヲ驗知セムトス
 口、供試品種 白裸一二號
 ハ、成績

試 驗 區 名	自昭和二年 至三年	二年平均收量	結 論
標 準 區	一 石	二 三 四	フロライト撒布區ノ効果大ニシテ收量亦多シ
フロライト(水一升ニ對シ十五瓦)撒布區	一 五	四 〇	
砒酸鉛(二十倍)撒布區	一 四	〇 二	

（備考）各薬剤共酸性白土ヲ混ジタリ

二、大豆紫斑病豫防試験（宮城縣）

- イ、目的 大豆紫斑病ニ対スルホルドー液ノ効果ヲ知ラムトス
- ロ、供試品種 龍谷三三號
- ハ、成績

試験區名	自昭和十五年 至昭和十六年 三年平均紫病歩合		結論
	出末過一号	出末過一号	
無撒布區	一七・五	一四・〇	紫斑病ニ対スルホルドー液ノ効果ハ確實ニシテニ、三回撒布スルヲ可トスルモノノ如シ
ホルドー液一回撒布區	五・三	三・八	
ホルドー液二回撒布區	九・九	三・三	
ホルドー液三回撒布區	八・五	三・九	

（備考）ホルドー液ハ等量三斗式ニシテ及當一石ノ割ニ撒布セリ

三、大豆紫斑病ノ發生ト硫酸アンモニア施用量トノ關係試験（宮城縣）

- イ、目的 硫酸アンモニア施用量ト大豆紫斑病發生トノ關係ヲ知ラムトス
- ロ、成績

試験區名	自昭和十四年 至昭和十五年 二年平均紫病歩合		結論
	出末過一号	出末過一号	
無施用區	二〇・一	一四・〇	硫酸アンモニアノ増量ニ從ヒ大豆紫斑病ノ發生歩合多キ傾向アリ
硫酸アンモニア一五〇〇匁施用區	一・四	三・八	
硫酸アンモニア三〇〇〇匁施用區	五・二	四・一	
硫酸アンモニア四〇〇〇匁施用區	五・五	三・三	
硫酸アンモニア六〇〇〇匁施用區	九・六	三・九	

第八、土地改良ニ関スル試験

- 一、土質改良試験（山形縣）
- イ、目的 粘土及河芥ノ客土並ニ燒土ノ効果ヲ知ラムトス
- ロ、供試品種 白八石
- ハ、成績

試験區名	自昭和十一年三月平均收量		結論
	無肥料區	施肥區	
標 準 區 表土五寸ニ對シ容積ニ於テ三〇%ノ粘土客入區 二〇%ノ河芥客入區	〇石〇八三	一石八一七	無肥料區ニアリテハ燒土ノ効果著シク河芥客入之ニ次グモ施肥區ニアリテハ其ノ効果ハ著シカラズ
表土五寸燒土區	〇石〇四七	一石四七三	

二、酸性抵抗力考査試験（北海道、俱知安試作場）

イ、目的 酸性土壤ニ對スル大豆ノ抵抗力ヲ考査セムトス

ロ、成績

試驗區名	供試品種名	地 域	
		自昭和十四年九月平均收量	自昭和十一年八月平均收量
原土（酸度三九、四五）區	大豆	〇石二七九	〇石二八一
石灰燻正區	大豆	〇石七九六	〇石七八五
結 論	大豆ハ燕麥ニ比シ酸性土壤ニ對スル抵抗力弱ク大豆ノ酸度ニ比シ比較的強キ石灰施用ノ効果顯著ナリ、カワラゲ種ニ對シテハ尚試験繼續中		

(第一表)

道府縣別奨励品種一覽表

道府縣名	品種名	選出 試驗名	在 原種 二對 歩合	昭和 五年度 二於 於 普及 見込 面積	備考
北海道	赤小	赤小	二六九	二六九	
	白粒	白粒	一八九	一八九	
	石狩	石狩	三三八	三三八	
	三越	三越	三三八	三三八	
	蘭越	蘭越	二三八	二三八	
	中生	中生	三〇七	三〇七	
	吉岡	吉岡	三〇七	三〇七	
	甘藷	甘藷	三〇七	三〇七	
	鶴子	鶴子	四九七	四九七	
	黒豆	黒豆	一五三	一五三	
	銀大	銀大	一五三	一五三	
	霜不知	霜不知	一五四	一五四	

道府縣名	品種名	選出 試驗名	在 原種 二對 歩合	昭和 五年度 二於 於 普及 見込 面積	備考
岩手縣	早生	早生	七三	七三	
	中生	中生	六	六	
	大谷地一	大谷地一	七三	七三	
	大谷地二	大谷地二	六	六	
	玉造	玉造	五五	五五	
	菊地	菊地	一〇九	一〇九	
	陽月	陽月	四一五	四一五	
	野起	野起	二一八	二一八	
	陸羽二七	陸羽二七	一〇〇	一〇〇	
	東吉	東吉	六〇〇	六〇〇	
	岩手白玉	岩手白玉	二七	二七	
	岩手借金切	岩手借金切	一〇	一〇	
岩手ヤギ	岩手ヤギ	一三	一三		
岩手一	岩手一	二九	二九		
陸羽八	陸羽八	二七	二七		
出末過一	出末過一	二七	二七		

一三五

一三四

埼玉縣	群馬縣	栃木縣	茨城縣	
白 鈴 千 鬼 成 生 娘 標	鬼 白 晚 借 標 標 越 金 七 一 後 十 蹄 蹄 八 蹄	栃 栃 栃 木 木 木 三 二 一 蹄 蹄 蹄	御 生 娘 茨 城 社 一 蹄	白 毛 九 蹄
全 全 全 系統分離	全 全 系統分離 品種試驗	全 全 系統分離	全 系統分離 品種試驗	全
一 一 三 三 〇 三 九 五 六 七	二 二 〇 六 二 〇 四 二 〇	一 二 〇 四 二 四 八 七 四	一 二 二 一 七 三	一 七 〇
九 八 八 〇 〇 〇 〇 〇 〇	七 一 一 五 〇 〇 五 〇 〇 〇 〇 〇	一 一 六 五 一 八 一 三 八 五 七	二 九 七 〇 二 〇 八 〇 〇 〇	一 三
		芳賀在米種ヨリ分離 下都賀在米種ヨリ分離 下都賀在米種ヨリ分離		

福島縣	山形縣	秋田縣	宮城縣
白 目 旭 達 八 白 六 磨 石 一 〇 二 二 蹄 蹄 蹄	伊 秋 白 達 田 八 青 兄 石	黒 兄 秋 白 陸 英 田 五 英 羽 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄	玉 太 毛 造 白 撮 一 一 一 蹄 蹄 蹄
全 全 全 系統分離	全 全 品種試驗	全 全 全 系統分離 品種試驗	全 全 全
二 一 一 八 一 一 五 〇 三 三		二 一 一 九 八 〇 〇 三 七 六	一 〇 一 三 六 三
六 七 八 九 三 八 七 六	二 四 一 一 〇 〇 五 〇	一 二 一 二 七 五 九 五 四 二 一 〇 九 四 八	一 三 七 七 二 七 七 二 九

廣島縣	島根縣	福井縣	石川縣	新潟縣
丹波産黒大豆四二辨 白大八輪三八辨	中熟大豆 借金十シ	白猫選 白八石選 借金十シ選	赤龍 龍谷 赤龍	水行龍谷 岩船龍谷 生琅谷 赤生
系統分離	品種試驗	系統分離	品種試驗	品種試驗
(一) 四・〇	七・四	一・八・六 一・三・五 一・七・二		
五・〇	二・〇 三・五	二・八・五 五・六・九 八・五・四	一・〇 二・〇	一・九 七・〇 六・〇 六・〇 三・〇
兩種共青利用ニモ適ス				

鹿見島縣	長崎縣
鹿見島白口一辨 黄 早生金大豆 英	改良稔恩坊 改良白目 改良生娘
系統分離	系統分離
七・一	一・〇 九・八・〇 八・八
(増殖中) 二・七・二 五・〇 六・五	三・〇 五・〇 二・〇
	稔恩坊種ヨリ分離 白目種ヨリ分離 生娘種ヨリ分離

枳水銀秋刈借枳千白地白蘭黑黃兄廿
 木 田羽金木成 小
 二 大 五龍十一生
 聯潜豆跡谷シ跡娘粒塚玉越英英 露

一 一 一 一 一 一 一 一 二 二 二 三 二 二 二
 一 三 五 五 六 六 六 八 九 〇 〇 三 〇 七 九 〇
 八 〇 三 九 〇 〇 一 〇 二 〇 〇 〇 一 二 一 七
 五 〇 七 〇 〇 四 七 〇 一 〇 〇 五 五 〇 六 四

白伊白祇白早目中赤白借晚霜龍岩白
 達 恩 生 生 金 越 不 手
 口青毛坊目裸白裸鞘裸切後知谷跡英

一 增 植 中
 一 三 五 五 七 九 〇 〇 〇 五 五 〇 〇 四
 〇 三 〇 〇 八 八 六 〇 〇 〇 〇 四 〇 〇 九

一四一

中三吉石陽赤鶴早出玉ヤ生鬼大
 生 岡 狩 金 米 谷
 黑 大 大 大
 粒石粒白月英子豆過造ギ娘裸地

三 三 三 三 四 四 四 五 六 六 八 九 一 九
 〇 八 八 八 一 五 九 〇 八 九 二 九 七 二
 七 四 四 四 五 九 九 六 五 二 八 二 〇 一
 四 二 二 二 九 〇 五 五 二 二 八 〇 〇 二町

白旭中達丹白枳大東岩毛御鈴陸
 熟 波 大 木 船 羽 二 七
 大 産 黒 八 三 龍 成 跡
 猫 豆 磨 豆 輪 跡 白 吉 谷 振 社 成 跡

二 二 三 四 五 五 五 六 六 七 七 八 八
 八 八 五 九 〇 三 七 〇 〇 二 八 〇 二
 五 七 〇 六 〇 九 二 〇 〇 九 〇 〇 八町

昭 和 五 年 度 二 於 ケ ル 獎 勵 品 種 ノ 普 及 見 込 面 積 ヲ 各 品 種 別 ニ 通 計 ス
 昭 和 五 年 度 二 於 ケ ル 獎 勵 品 種 ノ 普 及 見 込 面 積 ヲ 各 品 種 別 ニ 通 計 ス

(第二表)

系統分離試驗供用品種一覽表

品名	系統分離試驗施行道縣名
赤鬼	北海道 青森 秋田
裸英	青森 群馬 埼玉
生娘	茨城 千葉 長崎
借金	群馬 福井 島根
秋田	青森 秋田
王造	青森 宮城
ヤギ	岩手 宮城
瀧谷	宮城 埼玉
白八	福島 福井
大白	埼玉 沖繩
中大	北海道
蘭生	全
銀大	全

品名	系統分離試驗施行道縣名
霜不知	北海道
毛無	全
甘露	全
菊地	青森
刈羽龍	全
刈羽龍	全
陽月	全
中英	全
野起	全
沖田	全
千成	全
多福	全
早友	全
撫鶴	全
鶴子	全

白菊	八	一
石花地	三〇〇	二〇九
計	三四一	二一八

(第三表)

道府縣別試驗事項一覽表

道府縣名	試驗
北海道	品種系統、交配、古種子、播種期、生育領域、播種法、鎮壓法、耕鋤期、耕鋤深、淺、耕鋤期對耕鋤深、高畦平畦比較、培土、間作、要素、窒素適量、磷酸適量、加里適量、窒素質肥料用量、厩肥用量、過磷酸石灰用量、厩肥肥効、磷酸質肥料肥効比較、酸性抵抗力考査
青森	品種系統、播種期、播種法、覆土、摘心、要素、窒素適量、磷酸適量、加里適量
岩手	品種系統、交配、播種期、播種法、播種法對肥料用量、摘葉、熟期促進、要素、磷酸加里及石灰適量、石灰用量、肥料配合
宮城	品種系統、播種期、播種量、播種法、摘葉、大豆紫斑病予防、大豆紫斑病ノ發生ト硫酸アソニエニア施用量トノ關係
秋田	品種系統、選種、播種期、本數、株間、收穫期、石灰用量
山形	品種、播種期、播種量及畦幅對播種法、品種對播種粒數、株間、播種法、磷酸加

福島	里及石灰適量、人尿施用、土質改良
茨城	品種系統、交配、播種期、畦幅、播種法、移植對直播、耕鋤深淺對肥料用量、間引、摘葉、前作關係、窒素質肥料用量、石灰用量、肥料配合
栃木	品種系統、播種期、株間、播種法、摘心、石灰用量、摘葉加用
群馬	品種系統、播種法、連作ニ對スル肥料、要素、三要素適量、肥料配合、葉卷虫取除
埼玉	品種系統、株種、選種、播種期、播種量、播種法、陸稻混植ト旱害トノ關係、前作關係、石灰加用、石灰効力、肥料用量、肥料配合
千葉	品種系統、播種期
東京	品種、前作關係
神奈川	品種、播種期、播種量對播種法、播種法、磷酸加里及石灰適量

徳島	山口	廣島	岡山	高根	鳥取	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都
品種	品種	品種系統	ナシ	品種系統、播種期、株間、播種法	品種	品種	ナシ	品種	未回答	ナシ

滋賀	三重	愛知	静岡	岐阜	長野	山梨	福井	石川	富山	新潟
ナシ	品種、種子乾燥、播種量、播種法、移植、對直播、骨粉用量、肥料配合	ナシ	ナシ	品種、播種期、播種法	品種、播種期、枝、疎密	品種	品種系統、畦幅	品種	品種	品種、播種期、株間、對肥料用量、整地、對播種法、播種法、對肥料用量、移植、對直播、摘心、收穫期、燐酸適量、過燐酸石灰及石灰用量、促肥素施用

沖繩	鹿児島	宮崎	大分	熊本	長崎	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川
品種、系統、播種期、播種量、株間、畦幅、播種法、三要素適量、肥料用量	品種、系統、播種期、畦幅、株間、播種法、肥料用量、過燐酸石灰用量	品種、播種期、畦幅、株間、播種法、收穫期、施肥期	品種	播種法	品種、系統、播種期、播種法	品種、播種法	ナシ	品種、系統、肥料用量	品種、系統	ナシ

(備考) 一、本表ハ本書ニ其ノ成績ヲ掲載セル試験事項ノ一覽表トス
 二、本表中ノ交配トハ人工交配試験系統トハ系統分離試験ヲ
 指稱スルモノニシテ其ノ他ノ試験ニ付テモ、試験レナル
 文字ヲ省畧セリ

農事改良資料目錄

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 一	優良農用器具機械ニ関スル調査	昭和四年四月
第 二	種莖ニ関スル協議會要録	同 年六月
第 三	穀物検査事業要覽第六號	同 年七月
第 四	穀物火力乾燥装置ノ概要	同 年十月
第 五	道府縣農事試験場ニ於ケル陸稻ニ関スル試験成績概要	同 年十二月
第 六	主要食糧農産物改良増進奨励事業要覽	昭和五年三月
第 七	昭和二年度農具共同利用ニ関スル調査	同
第 八	肥料要覽	同
第 九	病蟲害驅除豫防協議會要録(昭和四年四月開催)	同
第 一〇	昭和二年輸移出入植物検査統計 第五號 附輸移出入植物病蟲害調査研究事業概要	同
第 一 一	麥ノ他穀物要覽	同
第 一 二	本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥及麥酒ニ関スル調査	同
第 一 三	豆類要覽	同
第 一 四	桃糸蟻ニ関スル研究	同
第 一 五	動力鋤根別耕比較審査成績	同
第 一 六	工業農産物要覽	同
第 一 七	水稻栽培過程別時期ニ関スル調査	同 十月
第 一 八	農産主任技術官會議要録	昭和六年三月
第 一 九	穀物検査事業要覽 第七號	同
第 二 〇	稻熱病ノ防除ニ関スル試験研究成績	同
第 二 一	茶業要覽	同
第 二 二	農業用小型発動機審査成績	同
第 二 三	昭和四年輸移出入植物検査統計 第六號 附輸移出入植物病蟲害調査研究事業概要	同
第 二 四	優良農用機械ニ関スル調査	同
第 二 五	主要食糧農産物改良増進奨励事業要覽	同
第 二 六	道府縣ニ於ケル農産物改良増進ニ関スル奨励事項	同
第 二 七	道府縣農事試験場ニ於ケル小麥ニ関スル試験成績概要	同
第 二 八	園藝要覽	同

昭和七年三月二十五日印刷
昭和七年三月三十一日發行

農 林 省 農 務 局

印刷者 中 平 義 次
東京市外港野川町中里二九四番地

579
347

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 二 九	Japanese Cicadas. I. The genus <i>Phonacaspis</i> , II, The genus <i>Kimes</i> in Japan:	昭和六年三月
第 三 〇	稻熱病 = 關スル研究	同 四月
第 三 一	水稻栽培ニ於ケル慣行施肥量及施肥期 = 關スル 調査	同 三月
第 三 二	稻熱病防除ノ一方法トシテ種穀消毒及葉裏分	昭和七年三月
第 三 三	植物検査官會議要録	同
第 三 四	豆 類 要 覽	同
第 三 五	麥 類 他穀物要覽	同
第 三 六	穀物検査事業要覽 第八號	同
第 三 七	道府縣農事試験場ニ於ケル大豆 = 關スル試験 成績概要	同

終

